

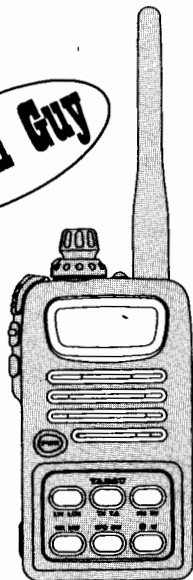
YAESU

FM HAND HELD TRANSCEIVER

FT-10/40

取扱説明書

Tough Guy



この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

このたびはYAESU FT-10/40マイクロ・ハンディ・トランシーバーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございました。

本製品は厳しい品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などにもなう、破損またはご不審な箇所がございましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスにお申し付けください。

また、万一故障したときには、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスまで修理をご依頼ください。当社の営業所/サービスの所在地・電話番号は、この取扱説明書のうら表紙に記載してあります。

なお、修理をご依頼になる場合には、故障の発生状況・症状等を具体的にお知らせください。

●お願い

正しい操作方法をご理解いただくために、お手数でも取扱説明書は最後までお読みくださるようお願いいたします。操作方法に誤りがあると、本製品の性能が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬトラブルや故障の原因になることがあります。

操作方法の誤りが原因で故障を生じた場合には、保証期間中でも有償扱いにさせていただきますので、ご注意ください。

なお、本体背面に貼り付けてある『技術基準適合証明ラベル』を、汚したり剥がしたりしないよう、ご注意ください。

また、本機を改造すると、技術基準適合機外になりますのでご注意ください。

●アフターサービス

◎保証期間は買い上げの日より1ヵ年です。

本製品には保証書が添付されています。お買い上げいただいた日から1年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。

◎保証書は大切に保管してください。

保証書を紛失しますと、保証期間中に発生した故障でも、保証期間が経過したものとして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。

また、販売年月日・販売店名等の必要事項が記入してない保証書も無効扱いにさせていただきますので、お買い上げいただきました販売店名・お買い上げ年月日等が正しく記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。

◎保証期間が経過したあとに故障が生じた場合は、ご相談ください。

修理により機能が維持できる場合には有償で修理させていただきますので、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスにご相談ください。

◎梱包箱も大切に保管してください。

修理や点検のために本製品を運搬する場合は、運搬中の事故やトラブルを防止するため、梱包箱を使用して運搬してください。

●ご愛用者カード

本製品には保証書の他に“ご愛用者カード”も添付しております。今後の製品開発の参考に致しますので、お手数でも必要事項をご記入の上お送りください。

製品の改良のため、取扱説明書の図などが一部製品と異なることがあります。
あらかじめご了承ください。

このセットについて、または他の当社製品についてのお問い合わせは、お近くの当社営業所/サービス宛にお願いいたします。

また、その際には、必ずセットの製造番号（本体背面に貼ってある銘版に記載してあります）を併せてお知らせください。

なお、お手紙をいただくときには、お客様のご住所・ご氏名を忘れずにお書きください。

ご使用の前に

付属品&オプション	4
ご注意	6
安全上のご注意	6
取り扱い上のご注意	6
電源について	7
アンテナについて	8
本体上面部の説明	9
本体前面部の説明	10
本体側面部の説明	11
定格 (FT-10)	12
定格 (FT-40)	13

基本操作

キーパッドの交換方法	16
準備	18
●電池ケースおよびNi-Cd電池パックの 取り付け/取り外しかた	18
●電池の入れかた	18
●付属アンテナの取り付け/取り外しかた	19
●ベルトクリップの取り付けかた	20
●ハンドストラップの取り付けかた	20
受信操作	21
●電源の入れかた/切りかた	21
●受信音の調節	22
●スケルチ回路の調節方法	23
●運用周波数の設定操作	24
●ステップ幅の設定操作	26
●VFOの切り換え方法	26
●キーロック操作	27
●LAMP機能	27
送信操作	28
●送信のしかた	28
●送信出力の設定方法	30

応用操作

TX SAVE機能	32
T.O.T (タイムアウトタイマー) 機能	33
受信中の送信禁止 (BCLO) 機能	33
音声録音機能	34
●録音時間の設定	34
●録音のしかた	36
○マイクからの音声をRECまたはREC 1に録音する場合	36
○マイクからの音声をREC2に録音する場合	36
○受信した音声をRECまたはREC 1に録音する場合	37
○受信した音声をREC2に録音する場合	38
○信号を受信した時自動的に RECまたはREC 1に録音する場合	39
●再生のしかた	39
○RECまたはREC 1に録音された音声を再生する場合	39
○REC2に録音された音声を再生する場合	40
○送信しながらRECまたはREC 1に 録音された音声を再生する場合	40
●送信しながらREC2に録音された音声を再生する場合	41
メモリー操作	42
●メモリーセット	43
○シンプレックス・メモリー操作	43
○セミデュプレックス・メモリー操作	44
●メモリーチャンネルの呼び出し操作	45
●メモリーモード時の付属機能	46
○ダイレクト呼び出し操作	46
○メモリーチューン機能	47
○メモリーチャンネルクリア操作	48
○メモリーオンリーモード	49
○タグ機能	50
●メモリーモードの解除	52
ホームチャンネル操作	53
●ホームチャンネルの呼び出し操作	53
●ホームチャンネルセット	54
○シンプレックス・セット	54
○セミデュプレックス・セット	54
●ホームチャンネル運用の解除	54

スキャン操作	55
●スキャンレギュレーションの選択操作	55
●VFO周波数スキャン	56
●メモリーチャンネルスキャン	57
○メモリーチャンネルスキャンスキップ	58
●プログラマブルメモリスキャン(PMS)操作	60
デュアルレシーブ機能	62
●VFOモード時のデュアルレシーブ機能	62
●メモリーモード時のデュアルレシーブ機能	63
●ホームチャンネル時のデュアルレシーブ機能	64
●デュアルレシーブ機能の解除	65
レピーター運用	66
送信オフセット運用	67
トーンスケルチ運用	69
●トーン周波数の選択操作	70
●トーンサーチ機能	71
DCS運用	72
●DCSコードの選択操作	73
●DCSサーチ機能	73
ベル機能	74
ARTS機能	75
●ARTS機能の設定操作	76
●ARTS機能を動作させる	77
●ARTS機能を終了させる	78
ページャー運用	78
●ページャーコードの設定	79
●待ち受け操作	82
●ページャー自動応答機能	84
●呼び出し操作	85
○ページャー呼び出し	85
○コードスケルチ呼び出し	86
マニュアル操作による呼び出し方法	87
●着呼禁止機能	88
DTMF機能	89
●DTMFメモリーセット	89
●DTMFメモリーの呼び出し	91
●DTMFモードの解除	91

バッテリーセーブ運用	92
ビーブ機能	93
オートマチックパワーオフ(APO)機能	94
FTT-10/A16Sのキーボード動作説明	95
FTT-10/A16Oのキーボード動作説明	96
FTT-10/A06のキーボード動作説明	97

セットモード

●セットモード	99
---------	----

その他

パケット通信	128
リセット操作	128
クローン機能	129
故障かな?と思ったら	130
アマチュア無線局免許申請書類の書き方	132
送信機系統図	134
索引	136

付属品

●アンテナ	YHA-56 (FT-10専用)	1	●ハンドストラップ	1
	または			
	YHA-57 (FT-40専用)	1	●取扱説明書	1

オプション

- FBA-15：電池ケース『マンガン電池・アルカリ電池専用』
- FNB-49：6.0V, 600mAh Ni-Cd電池パック
- FNB-40：6.0V, 650mAh Ni-Cd電池パック
- FNB-41：9.6V, 600mAh Ni-Cd電池パック
- FNB-42：9.6V, 1100mAh Ni-Cd電池パック
- NC-50：急速充電器『チャージスリーブ“CA-14”と組み合わせてご使用ください』
- CA-14：チャージスリーブ『急速充電器“NC-50”と組み合わせてご使用ください』
- NC-60A：FNB-40/-41/-42/-49 用標準充電器
- E-DC-5B：シガープラグ付外部電源用アダプター
- E-DC-6：外部電源用ケーブル
- MH-34B4B：スピーカーマイク
- MH-37A4B：イヤピースマイク
- VC-23：VOXヘッドセット
- CN-2：SMA-BNCアンテナ変換コネクタ
- CT-30：マイクアダプター
- CSC-68：FBA-15/FNB-41/-49用ソフトケース
- CSC-69：FNB-40用ソフトケース
- RH-1：ラバーホルスター
- PA-17：バッテリー延長ケーブル
- FTT-10/A16S：キーパッド
- FTT-10/A16D：キーパッド

ご使用の前に

(ご使用いただく前に必ずお読みください)

安全上のご注意

●本機の動作電圧範囲は

4.0～16.0Vです。外部電源を使用して運用するときには7ページの注意事項を良くお読みになって、**過電圧や逆接続**にならないよう、十分ご注意ください。

●異常？と感じたときは

煙が出ている、変な臭いがする・・・などの故障状態のまま使用すると危険です。すぐに電源スイッチを切るとともに電池ケースや外部電源などを外し、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社サービスステーションへ修理をご依頼ください。

●セットの内部に触れることは

故障の原因になります。内部の点検・調整は、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスにご依頼ください。

●水がこぼれたときには

セットのそばに花瓶、化粧品、薬品、飲料水などの、水の入った容器を置かないでください。万一、内部に水が入った場合は、すぐに電源スイッチを切るとともに電池ケースや外部電源などを外し、お買い上げいただきました販売店または最寄りの当社営業所/サービスにご相談ください。

取り扱い上のご注意

●変形、変色、結露、破損などの事故を未然に防止するため、次のような場所でのご使用および保管はできるだけ避けてください。

- 周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所。
- 寒い部屋から急に暖かい部屋への移動。
- 暖房器具の近く。
- 浴室などの湿気の多い場所。
- 車のダッシュボードなどの直射日光の当たる場所。
- 不安定な場所。

●TV・FM放送用送信アンテナの近くでは

放送電波の混入妨害が起こる場合がありますのでご注意ください。

●無線中継所の近くでは

業務用無線通信に妨害を与える場合がありますのでご注意ください。

●外部アンテナは

テレビアンテナや電灯線からなるべく離して設置してください。

●ケースが汚れたら

中性洗剤を湿した布などで軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ります。シンナーやベンジンはケースを傷めますので、絶対に使用しないでください。

電源について

本機には、オプションで乾電池ケース（FBA-15）や、各種のNi-Cd電池パックを用意しておりますので、運用時間や使用目的にあわせてご使用ください。

また、本機にはオプションとして外部電源用アダプター“E-DC-5B”や、外部電源用ケーブル“E-DC-6”を用意しておりますので、外部電源（DC11.0V～16.0V）を使用して運用することもできます。外部電源を使用して運用するときには次ページの注意事項を良くお読みになり、**過電圧や逆接続**等に十分注意して運用してください。

また、電源電圧が低下すると、ディスプレイに“”の表示が点滅して注意を促します。なお、電源電圧が低下すると、ディスプレイの表示が薄くなったり、送信出力が低下したりして、本機の性能を十分に発揮できなくなりますので、電池の交換や充電または電源回路の点検等を行なってください。



◎電池を交換するときには、必ず4本とも同じ種類の新しい電池に交換してください。

古い電池や種類の異なる電池と混用すると、電池の寿命が短くなってしまいます。

◎FBA-15はマンガン電池およびアルカリ電池用の電池ケースです。Ni-Cd電池では絶対に使用しないでください。

◎Ni-Cd電池パックの底面にある端子が汚れていると、接触不良などが原因で正常な充電を行うことができなくなる場合がありますので、時々乾いた布や綿棒などで清掃をおこなってください。

外部電源使用時の注意事項

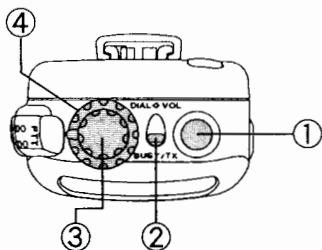
- 本機を外部電源で使用する場合には、必ずオプションの外部電源用アダプター“E-DC-5B”や、外部電源ケーブル“E-DC-6”を使用し、出力電圧が11.0V～16.0Vの範囲内にある直流電源に接続ください。
- オプションのNi-Cd電池パックを取り付けているときに外部電源を接続すると、自動的にNi-Cd電池パックにも充電されます。Ni-Cd電池パックの過充電により発生する事故を未然に防止するため、Ni-Cd電池パックを取り付けたときには、15時間以上外部電源で運用しないでください。なお、Ni-Cd電池パックを標準充電するためには、Ni-Cd電池パックの端子電圧に対して、約3.4V以上高い電圧が取り出せる外部電源が必要です。端子電圧が9.6VのFNB-42を標準充電する場合には、出力電圧が13.0V以上の外部電源が必要になります。
- FBA-15（マンガン電池およびアルカリ電池専用の電池ケース）を装着したときには、外部電源用アダプターを接続しても、充電回路は動作しない構造になっています。
- 外部電源用アダプターの取り付け/取り外しは、必ず電源“OFF”の状態で行ってください。

アンテナについて

本機のアンテナインピーダンスは、50Ω系の負荷に整合するように設計してあります。したがって、付属のアンテナでなくても、アンテナ端子に接続する点のインピーダンスが50Ωの144MHz帯用（FT-10の場合）または、430MHz帯用（FT-40の場合）アンテナであれば、どのような型式のアンテナでも使うことができます。

なお、外部アンテナを使用するときには、良質の50Ω系同軸ケーブルを使用し、本機とアンテナの間を最短距離で接続してください。

アドバイス 本機は超小型のSMAコネクタを使用していますが、オプションのアンテナ変換コネクタ“CN-2”を使用することにより、BNCコネクタを使用したアンテナも接続することができるようになります。



① ANT

アンテナ接続用のSMA型コネクターです。

② BUSY/ TXインジケーター

本機の送受信状態を表示するLEDです。

受信信号が入感しているときには緑色、送信状態のときには赤色に点灯します。

アドバイス BUSY/TXインジケーターを点灯しないように設定することができます。

(112ページ)

③ DIALツマミ

運用周波数の設定やメモリーチャンネルの選択などを行うツマミです。

また、0.5秒以上押すとセットモード(115ページ)の状態になります。

アドバイス セレクトキーの動作選択操作(115ページ)を行うと、DIALツマミを押したときの動作を換えることができます。

④ VOLツマミ

時計方向(右)にまわすと受信音は大きくなり、反時計方向(左)にまわすと受信音は小さくなります。

① スピーカー

内蔵スピーカーの位置です。

② PWRスイッチ

本機の電源を“ON/OFF”するスイッチです。
このスイッチを押すと電源“ON”，0.5秒以上押し続けると電源“OFF”になります。

③ キーボード

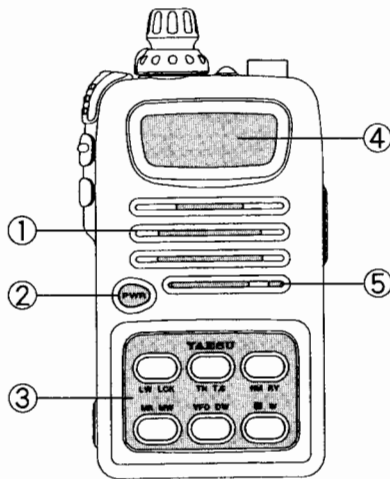
メモリー操作・スキャン操作などの、各種の操作を行うキーボードです。
詳しくは、95ページの“キーボードの動作説明”をご覧ください。

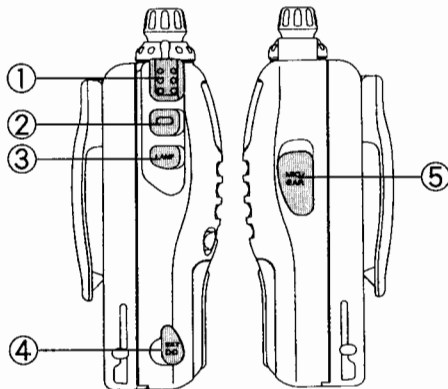
④ ディスプレイ

運用周波数や各種の動作状態を表示する液晶表示器です。

⑤ マイクロホン

内蔵マイクロホンの位置です。
送信するときには、ここに向かって話しかけます。





① PTTスイッチ

送受信状態を切り換えるスイッチです。
このスイッチを押すと送信状態になり、離すと受信状態に戻ります。

② MONIスイッチ

本機のスケルチ回路（☞ 23ページ）の動作を一時的に解除するスイッチです。

アドバイス

トーンバーストキーとして動作させることができます。（☞ 116ページ）

③ LAMPスイッチ

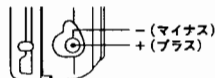
ディスプレイの照明用ランプスイッチです。
このスイッチを押すと照明ランプが点灯します。

アドバイス

照明ランプの点灯条件を変更することができます。（☞ 112ページ）

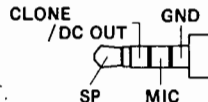
④ 外部電源端子

本機を外部電源で動作させるときや、Ni-Cdバッテリーパックを充電するときに使用する端子です。オプションの“E-DC-5B”や“E-DC-6”を使用して、外部直流電源（11.0V～16.0V）に接続します。また、Ni-Cdバッテリーパックを充電するときには“NC-60A”を接続します。なお、故障の原因になりますので、指定のケーブル以外は絶対に使用しないでください。



⑤ MIC/ EAR

外部マイクロホン接続するためのジャックです。EARジャックと併用し、オプションのスピーカーマイク“MH-34B4B”や、イヤピースマイク“MH-37A4B”または、VOXヘッドセット“VC-23”などを接続して運用します。なお、このジャックを使用中は、内蔵スピーカーの動作は止まります。



一般定格

送受信周波数範囲：144.00～146.00MHz

送受信周波数：上記範囲内で

5/10/12.5/15/20/25/50kHzの任意のステップ

電波の型式：F2,F3

通信方式：単信方式

周波数偏差：-20℃～+60℃において±10ppm以内

アンテナインピーダンス：50Ω（不平衡）

電源：定格；直流9.6V， マイナス接地

動作可能範囲；

直流4.0V～16.0V， マイナス接地

消費電流：受信定格出力時；約200mA

（電源電圧； 受信スケルチ時；約50mA

直流9.6V時）（バッテリー使用時）

受信バッテリーセーブ時；約13mA

（受信1：セーブ10 平均消費電流）

送信5W出力時；約1.2A

オートパワーオフ時；約150μA

使用温度範囲：-20℃～+60℃

ケース寸法：幅57×高さ99×奥行き30mm

Ni-Cd電池パック“FNB-40”使用時

本体重量：約325g

（Ni-Cd電池パック“FNB-40”，

ベルトクリップ，

付属アンテナ“YHA-56”を含む）

送信部

定格終段入力：11.5W

送信出力：5W（2.8/1.0/0.1W切り換え可）

変調方式：リアクタンス変調

最大周波数偏移：±5.0kHz（IDCおよびスプラッタフィルター付き）

占有周波数帯域幅：16kHz以内

不要輻射強度：1mWかつ60dB以下

マイクロインピーダンス：2kΩ（エレクトレットコンデンサ型）

受信部

受信方式：ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン

中間周波数：第一中間周波数；17.7MHz

：第二中間周波数；450kHz

受信感度：0.16μV（-16dBμ）以下

@12dB SINAD

通過帯域幅：12kHz以上/-6dB

選択度：30kHz以下/-60dB

低周波定格出力：500mW以上

（8Ω THD10% 電源；直流9.6V時）

低周波出力インピーダンス：8Ω

副次的に発生する電波の強度：4000μW以下（-54dBm）

★測定法はJAIAで定めた測定方法による

★定格値は常温・常圧時の値です

一般定格

送受信周波数範囲：430.00～440.00MHz

送受信周波数：上記範囲内で

10/12.5/20/25/50kHzの任意のステップ

電波の型式：F2,F3

通信方式：単信方式

周波数偏差：-20℃～+60℃において±5 ppm以内

アンテナインピーダンス：50Ω（不平衡）

電源：定格；直流9.6V、マイナス接地

動作可能範囲；

直流4.0V～16.0V、マイナス接地

消費電流：受信定格出力時；約200mA

（電源電圧； 受信スケルチ時；約45mA

直流9.6V時）（バッテリー使用時）

受信バッテリーセーブ時；約13mA

（受信1：セーブ10 平均消費電流）

送信5.0W出力時；約1.6A

オートパワーオフ時；約150μA

使用温度範囲：-20℃～+60℃

ケース寸法：幅57×高さ99×奥行き30mm

Ni-Cd電池パック“FNB-40”使用時

本体重量：約325g

（Ni-Cd電池パック“FNB-40”、

ベルトクリップ

付属アンテナ“YHA-57”を含む）

送信部

定格終段入力：13.5W

送信出力：5W（2.5/1.0/0.1W切り換え可）

変調方式：リアクタンス変調

最大周波数偏移：±5.0kHz（IDCおよびスプラッタフィルター付き）

占有周波数帯域幅：16kHz以内

不要輻射強度：1mWかつ60dB以下

マイクロホンインピーダンス：2kΩ（エレクトレットコンデンサ型）

受信部

受信方式：ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン

中間周波数：第一中間周波数；58.05MHz

：第二中間周波数；455kHz

受信感度：0.18μV（-15dBμ）以下

@12dB SINAD

通過帯域幅：12kHz以上/-6dB

選択度：30kHz以下/-60dB

低周波定格出力：500mW以上

（8Ω THD10% 電源；直流9.6V時）

低周波出力インピーダンス：8Ω

副次的に発する電波等の限度：4000μμW以下（-54dBm）

★測定法はJALIAで定めた測定方法による

★定格値は常温・常圧時の値です

基本操作

(使いかた)

この項では、本機の電源の入れかたや送受信操作などの、基本的な操作方法について説明します。

キーパッドの交換方法

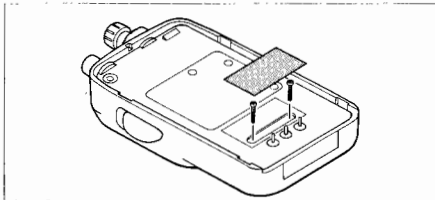
●キーパッドの交換方法

本機は、オプションでFTT-10/A16SおよびFTT-10/A16Dのキーパッドが用意されていますが、これらのキーパッドをご使用になる場合は、下記の方法で交換作業を行ってください。



キーパッドを交換すると、今までメモリーした内容はすべて消去され、各種設定値も工場出荷時の状態に戻ります。

1. 電池ケースまたはNi-Cd電池パックを外します。
(☞ 18ページ)
2. 下図に示すシールをはがして、付属のドライバーでビス(2本)を外します。



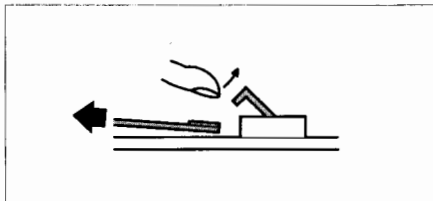
3. キーパッドを本体から取り外します。



◎キーパッドはトランシーバー本体とフレキシブル基板上で接続されていますので、無理に引っ張らないでください。

◎静電気などにより半導体が破損する恐れがありますので、必要箇所以外の場所には不用意に手を触れないでください。

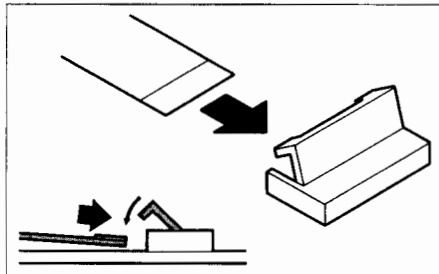
4. 下図を参考にして、フレキシブル基板をコネクターから外します。



5. 下図を参考にして、新しく取り付けるキーパッドのフレキシブル基板を、コネクタに取り付けます。



取り付けの際は、フレキシブル基板をコネクタの奥まで真っ直ぐに差し込み、確実に取り付けて下さい。

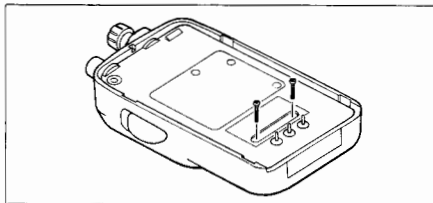


6. 取り付けが終わりましたら、フレキシブル基板を軽く引っ張り、抜けたりしないことを確認してください。
7. キーパッドをトランシーバー本体に取り付けます。

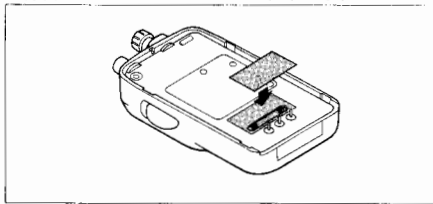


キーパッドを取り付ける際、防水用ゴムパッキンがねじれたり、はみ出したりしないように取り付けてください。ねじれやはみ出しなどがあると防水効果がなくなります。

8. 下図を参考に、付属の2本のビスを使用してキーパッドをビス止めします。



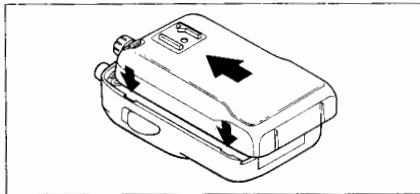
9. 一度電池ケースを取り付け、電源を入れてトランシーバーが正常に動作することを確認してください。
10. 正常に動作することを確認したら、電源スイッチを切り、電池ケースを外し、下図に示す場所に、付属のシールを貼って作業は終了です。



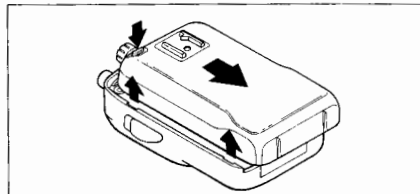
キーパッドの交換を当社営業所/サービスにご依頼になる場合には、別途料金を申し受けますのでご了承ください。

●電池ケースおよびNi-Cd電池パックの 取り付け/ 取り外しかた

1. 電池ケース（またはNi-Cd電池パック）の凸部を本体の溝にあわせて差し込み、電池ケース（またはNi-Cd電池パック）を矢印の方向にスライドさせて取り付けます。

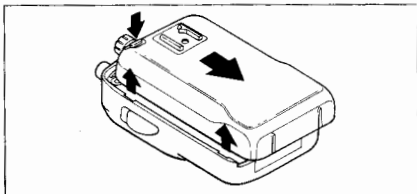


2. 本体から電池ケース（またはNi-Cd電池パック）を取り外すときには、本体背面にあるUNLOCKボタンを押しながら、電池ケース（またはNi-Cd電池パック）を矢印の方向にスライドさせれば取り外すことができます。

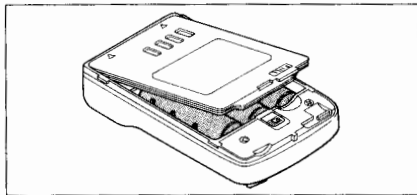


●電池の入れかた（FBA-15を使用する場合）

1. 電池ケース“FBA-15”を、背面にあるUNLOCKボタンを押しながらスライドさせて、本体から取り外します。



2. 単3型乾電池4本を、極性を間違えないように注意し、指定通りに電池ケースに入れます。



アドバイス 電池を入れる際、+極から入れると入れやすくなります。



◎電池ケースのフタを閉める際、ゴムパッキンがはみ出さないように注意してください。

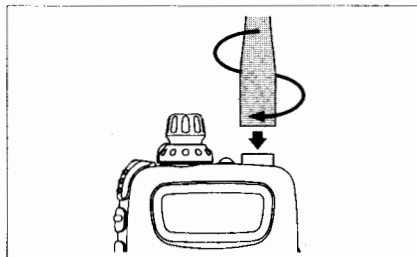
◎電池ケースに電池を入れるときには、必ず4本とも同じ種類の新しい電池を使用してください。古い電池や種類の異なる電池と混用すると、電池の寿命が短くなります。

◎FBA-15はマンガン電池およびアルカリ電池用の電池ケースです。Ni-Cd電池は絶対に挿入しないでください。

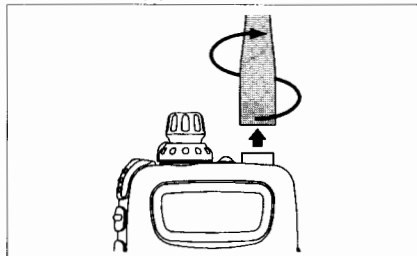
◎Ni-Cd電池バック出力端子に、クリップなどの金属片などが触れてショートしないように、十分に注意してください。

●付属アンテナの取り付け/取り外しかた

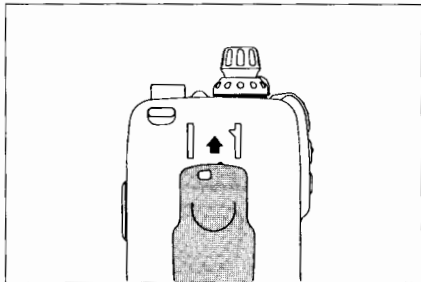
1. 付属アンテナを取り付けるときには、アンテナ底部をアンテナ端子にあわせて、アンテナを時計(右)方向にまわして取り付けます。



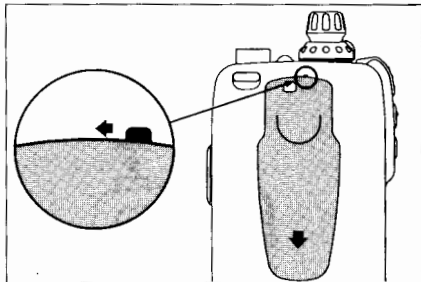
2. アンテナ端子からアンテナを取り外すときには、アンテナを反時計(左)方向にまわせば、取り外すことができます。



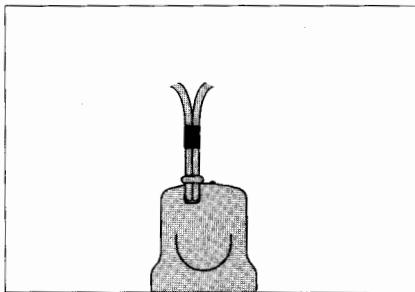
- ベルトクリップの取り付け/ 取り外しかた
ベルトクリップは下図に示すように、本体背面の溝にあわせて取り付けます。



ベルトクリップを取り外すときは、下図で示す部分を矢印の方向に押しながら外してください。



- ハンドストラップの取り付けかた
付属のハンドストラップは下図に示すように、ベルトクリップにある取り付け穴に通して使用します。間違った取り付けかたをして、ハンドストラップが外れないようご注意ください。

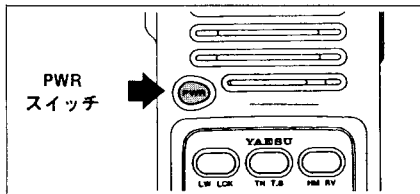


受信操作

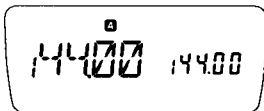
●電源の入れかた/ 切りかた

電源を入れるときには、本体前面にある**PWRスイッチ**を押します。

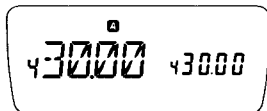
また、**PWRスイッチ**を0.5秒以上押し続けると、電源が切れます。



はじめて電源を入れたときには、下に示すような表示がディスプレイに現れ、表示された周波数を受信することができます。



FT-10の場合



FT-40の場合

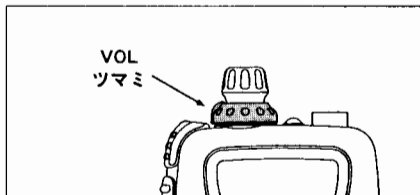
アドバイス

- ◎工場出荷後、はじめて電源を入れると、このような表示になりますが、つぎに電源を入れるときにはバックアップ機能により、電源を切る前に設定した状態を表示するようになります。
- ◎本機には、**VFO A**、**VFO B**の2つのVFOを内蔵しています。また、**VFO A**あるいは**VFO B**を使用して運用することを“**VFOモード**”と呼びます。VFOの切り換え方法は、26ページの“**VFOの切り換え方法**”をご覧ください。
- ◎ディスプレイの右側にはもう一つのVFO (**VFO A**を使用しているときは**VFO B**)の周波数や、各種情報が表示されますが、この表示を消すことができます。

(☞ 104ページ)

●受信音の調節

受信音の調節は、本体上面部にあるVOLツマミで行います。



時計方向に（右）にまわすと受信音は大きくなり、反時計方向（左）にまわすと受信音は小さくなりますので、適当な音量になるようVOLツマミを調節します。

アドバイス 現在設定されている周波数に運用中の局がないときには、本体側面のMONIスイッチを押すと“ザー”というFM特有のノイズが聞こえますので、このノイズが適当な音量になるようVOLツマミを調節します。

スケルチ回路の調節方法

スケルチ回路とは、受信信号の入感がないときに出る、FM特有の“ザー”という雑音を消す回路のことをいいます。

工場出荷時のスケルチ回路レベルは、無信号時やノイズに埋もれた弱い信号では雑音が出ない設定（レベル8）になっていますので、調節する必要はありませんが、弱い信号の受信を目的とするときには、下記に示す“マニュアル操作”でスケルチ回路の調節を行います。

アドバイス FTT-10/A06をご使用の場合は、100ページの方法でスケルチ回路の調整を行ってください。

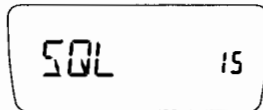
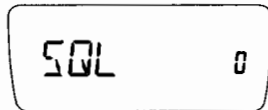
1. キーボードの  キーを押した後に続けて  キーを押し、DIALツマミをまわすとスケルチ回路の動作レベルが、次のように変化しますので、相手局の信号強度に合わせて調節してください。

（スケルチ回路の動作レベル）

“SQL 0” ↔ “SQL 1” ↔ “SQL 2” “SQL 13” ↔ “SQL 14” ↔ “SQL 15”

◀ 浅い（弱い信号でも受信できる）

（弱い信号は受信できなくなる）深い ▶



2. 最後に  キーを押してスケルチ回路の調整は終了です。

●運用周波数の設定操作

運用周波数の設定操作には、

◎DIAL TUNING：

DIALツマミによる設定方法

◎DIRECT TUNING：

キーボードの数字キーにより、周波数を直接設定する方法

の2種類の方法がありますので、そのときの状況にあわせて使い分けてください。



DIRECT TUNING は、FTT-10/A16SまたはFTT-10/A16Dでのみ操作がおこなえます。

アドバイス

設定した周波数は、簡単な方法でメモリーチャンネルまたはホームチャンネルに登録して運用することができます。詳しくは、42ページの“メモリー操作”または53ページの“ホームチャンネル操作”をご覧ください。

DIAL TUNING

DIALツマミは、時計（右）方向にまわすと1ステップずつ運用周波数が高くなり、反時計（左）方向にまわすと1ステップずつ運用周波数が低くなります。

また、キーボードの  キーをワンタッチで押して、ディスプレイに“G”の表示が点灯している間（約5秒間）にDIALツマミをまわすと、1MHzずつ運用周波数を変化させることができます。

アドバイス

1ステップの周波数変化量（ステップ幅）は、5（FT-10のみ）/10/15（FT-10のみ）/12.5/20/25/50kHzの内から1つを選択することができます（工場出荷時には、VFO A/Bともに20kHzが設定してあります）。詳しくは、26ページの“ステップ幅の設定操作”をご覧ください。

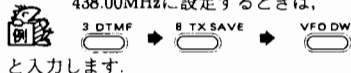
DIRECT TUNING

(FTT-10/ A16SまたはFTT-10/ A16Dのみ対応)

キーボードの数字キーで、運用周波数を直接設定することができます。なお、キー入力のしかたは設定してあるステップ幅により若干異なり、つぎのようになっています。また、バンド外の周波数など、キー入力が無効なときには、“ビビビッ”と電子音を発してキー入力する前の周波数に戻ります。

アドバイス 入力の途中で **VFO DW** キーを押すと、以下の桁が“0”に確定されます。

438.00MHzに設定するとき、



●ステップ幅：5/ 15kHzのとき (FT-10のみ)

145.86MHzに設定するとき、

キーボードより、



と10MHzの桁から1kHzの桁まで順に入力して行きます。

1kHzの桁のキー入力は、**0 SQL** **5 APO** 以外のキー入力は受け付けません。

●ステップ幅：10/ 20kHzのとき

435.86MHzに設定するとき、

キーボードより、



と10MHzの桁から10kHzの桁まで順に入力して行きます。

●ステップ幅：12.5/ 25kHzのとき

435.8625MHzに設定するとき、

キーボードより、



と10MHzの桁から10kHzの桁まで順に入力して行きます。10kHzの桁を入力すると、自動的に1kHzの桁と100Hzの桁が設定され、キー入力が完了します。

10kHzの桁のキー入力は、

4 SAVE キーと **0 BEEP** キーは受け付けません。

●ステップ幅：50kHzのとき

435.85MHzに設定するとき、

キーボードより、



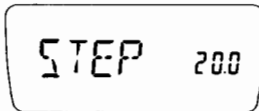
と10MHzの桁から10kHzの桁まで順に入力して行きます。10kHzの桁を入力すると、自動的に1kHzの桁が“0”に設定され、キー入力が完了します。

10kHzの桁のキー入力は、**2 CODE** **5 APO** **7 STEP** **0 SQL** 以外のキー入力は受け付けません。

ステップ幅の設定操作

アドバイス FTT-10/A06の場合は106ページの方法でステップ幅の設定を行ってください。

1. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在設定してあるステップ幅が表示されます。
(工場出荷時は20kHzに設定されています)
2. この状態でDIALツマミをまわすと、ステップ幅がつぎのように変化します。希望するステップ幅に合わせます。



◀ 左まわし

右まわし ▶

5 (kHz : FT-10のみ) → 10 (kHz) → 12.5 (kHz) → 15 (kHz : FT-10のみ) → 20 (kHz) → 25 (kHz) → 50 (kHz)

3. 設定終了後  キーを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、ステップ幅の設定操作は終了します。

アドバイス ◎PTTスイッチを押すことにより、設定を途中で中止することができます。

- ◎本機のステップ幅は右表に示すように、VFO AとVFO Bに、それぞれ異なるステップ幅を個別に設定することができます。

	VFO A	VFO B
ステップ幅	20kHz	12.5kHz

- ◎ステップ幅はセットモードでも設定することができます。詳しくは106ページをご覧ください。

VFOの切り換え方法

VFOの切り換えは、キーボードの  キーで行います。

キーボードの  キーは押すたびに、使用するVFOが

VFO B ◆ VFO A ◆ VFO B

と交互に切り換わりますので、どちらか希望するVFOに設定します。

- アドバイス** 本機に内蔵してある2つのVFO (A/B)は、完全に独立していますので、異なる運用周波数や異なるステップ幅などを個別に設定することができます。

●キーロック操作

本機は、誤って運用周波数に変化したりしないよう、キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、キーボードの動作をロックする（キー操作を受け付けなくする）ことができます。

アドバイス ◎キーロック時には、ディスプレイに“**KL**”の表示が点灯します。

◎キーロック操作は、110ページの“**ロックスイッチの動作選択操作**”を行うことにより、DIALツマミやPTTスイッチの動作もロックすることができます。

●LAMP機能

本体側面にある**LAMPスイッチ**を押すと、ディスプレイ照明用ランプが点灯し、約5秒後に自動的に消灯します。

アドバイス 本機の**LAMPスイッチ**は、112ページの“**LAMPスイッチの動作選択操作**”を行うことにより、動作を変更することができます。

送信操作



◎送信するときには必ず、アンテナかダミーロードを接続して行い、決して無負荷で送信しないように十分ご注意ください。

◎送信するときには、すでに行われている他の通信に妨害を与えないよう、十分ご注意ください。

◎本機は、アマチュアバンドの下端(144.00MHzまたは430.00MHz)から上端(146.00MHzまたは440.00MHz)まで送信することができますが、バンド内の使用区分が郵政省告示により定められておりますので、このルールに従って運用してください。

詳細は、次ページの“144/430MHz帯の使用区分について”をご覧ください。また、アマチュアバンドの下端(144.00MHzまたは430.00MHz)と上端(146.00MHzまたは440.00MHz)では、オフバンドになりますので絶対に送信しないでください。

●送信のしかた

PTTスイッチを押すとBUSY/TXインジケータが赤色に点灯し、送信状態に切り換わります。

アドバイス BUSY/TXインジケータを点灯しないように設定することができます。(P.112ページ)

PTTスイッチを押した状態でマイクに向かって話をしてください。また、PTTスイッチを離すと受信状態に戻ります。

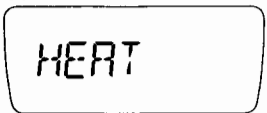


本機は、長時間送信し続けると過熱防止回路が働き、送信出力が自動的にLOWパワーになります。

また、過熱防止回路が働いている状態でさらに送信を続けると、ディスプレイに“HEAT”を表示して、強制的に受信状態に戻り、セット内部の温度上昇による故障を未然に防ぎます。

本機が過熱防止回路により強制的に受信状態になったときには、“本機

の電源をOFFにする”か“少しの間受信状態を保つ”かして、セット内部の温度が下がるまで本機を休ませてください。



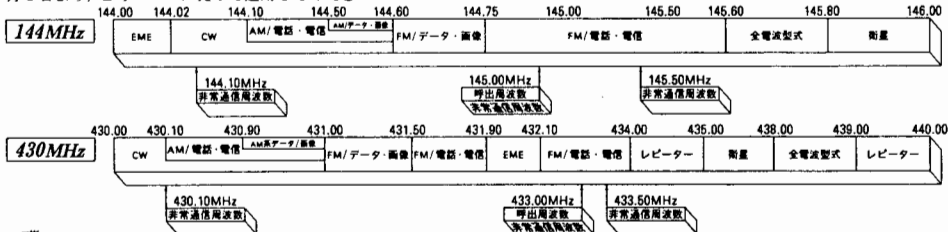
HEAT

アドバイス

本機では誤送信を防ぐため、PTTスイッチを電氣的にロックすることができます。詳しくは、110ページの“ロックスイッチの動作選択操作”をご覧ください。

144/430MHz帯の使用区分について

平成4年5月14日付け郵政省告示第316号により、144/430MHz帯の使用区分が下記に示すように定められましたので、平成4年7月1日より、このルールに従って運用してください。



詳細は、財団法人日本アマチュア無線振興協会（JARL）または社団法人日本アマチュア無線連盟（JARL）にお問い合わせください。

伝送情報及び用途等	アマチュア業務に使用する電波の型式
CW	A1
AM/電話・電信	A2(注1) A3 A3A・A3H・A3J(SSB) A9(注2)
AM/データ・画像	A2(注3) A4 A5J(注4) A9(FAX) A9C(FAX) F1(注3) F4(注5) F5(注6)
FM/電話・電信	F2(注1) F3
FM/データ・画像	F2(注3) F4(注7) F5(注8) F9(FAX)
衛星(注9)	A1 A3A・A3H・A3J(SSB) F1(注3) F2(注3)
EME(注10)	A1 A2(注1) A3 A3A・A3H・A3J(SSB)
レビーター(注11)	F2 F3 F4(注7) F5(注8) F9(FAX)
全電波型式(注12)	A1 A2 A3 A3A A3H A3J A4 A5 A5C A5J A9 A9C F1 F2 F3 F4 F5 F9 P0 P1 P2D P2E P2F P3D P3E P3F P9

注1：A2及びF2は、モールス無線電信による通信に使用する電波とする。

注2：A9は、抑圧搬送波両側帯の無線電話の電波とする。

注3：A2、F1及びF2は、データ伝送（機械によって、処理される情報又は処理された情報の伝達）を行う電波とする。

注4：A5Jは、主搬送波を定調した副搬送波で振幅定調（抑圧搬送波単側帯の場合に限る。）してテレビジョン伝送を行うF5に該当しない電波とする。ただし、占有周波数帯幅は、3kHz以下とする。

注5：F4は、主搬送波を周波数定調した副搬送波で振幅定調（抑圧搬送波単側帯の場合に限る。）してファクシミリ伝送を行う電波で、定調信号の帯域幅は3kHz以下とする。

注6：F5は、主搬送波を周波数定調した副搬送波で振幅定調（抑圧搬送波単側帯の場合に限る。）してテレビジョン伝送を行う電波で、定調信号の帯域幅は3kHz以下とする。

注7：F4は、主搬送波を直接に又は周波数定調した副搬送波で周波数定調してファクシミリ伝送を行う電波で、定調信号の帯域幅は3kHz以下とする。

注8：F5は、テレビジョン伝送を行う電波で、定調信号の帯域幅は3kHz以下とする。

注9：衛星は、衛星通信に使用する電波をいう。

注10：EMEは、月面反射通信に使用する電波をいう。

注11：レビーターは、社団法人日本アマチュア無線連盟（JARL）のアマチュア業務の中継用無線局（レビーター局）との通信に使用する電波をいう。

注12：全電波型式は、各アマチュア局に指定されるすべての電波型式とする。

●送信出力の設定方法

近距離通信の場合には、送信出力をローパワーにして電池の消耗を防ぎます。

1. キーボードの  キーを押すと、“LOW” の表示がディスプレイに現れ、送信出力がローパワーになります。

アドバイス 下記の操作を行うことにより、ローパワーの出力を変更することができます。

2. もう一度  キーを押すと、ディスプレイの“LOW” の表示が消灯して、送信出力がハイパワーに戻ります。

アドバイス ディスプレイ内のS&POメーター表示は、送信出力の違いにより、送信時に点灯する位置がそれぞれ異なります。

ローパワー出力の設定方法

1. DIALツマミを0.5秒以上押してセットモードにします。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を、“TXPO-02-”にあわせます。
3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、ディスプレイの表示が下記のように変わりますので、希望の出力に設定します。

◆ HI ◆ L3 ◆ L2 ◆ L1 ◆

HIの場合

TXPO HI

L3の場合

TXPO L3

L2の場合

TXPO L2

L1の場合

TXPO L1

	送信出力設定値							
	HI		L3		L2		L1	
	FT-10	FT-40	FT-10	FT-40	FT-10	FT-40	FT-10	FT-40
乾電池	約 2.0W	約 2.0W	約 2.0W	約 2.0W	約 1.0W	約 1.0W	約 0.1W	約 0.1W
FNB-40/-40	約 2.5W	約 2.5W	約 2.5W	約 2.5W	約 1.0W	約 1.0W	約 0.1W	約 0.1W
FNB-41/-42	約 6.0W	約 6.0W	約 2.8W	約 2.5W	約 1.0W	約 1.0W	約 0.1W	約 0.1W
外部電源 (12V時)	約 6.0W	約 6.0W	約 2.8W	約 2.5W	約 1.0W	約 1.0W	約 0.1W	約 0.1W

応用編

(各種の機能と操作)

“基本操作”の項目で本機の基本的な操作方法を説明しましたが、この項では、メモリー操作やスキャン操作などの“各種の機能とその操作方法”について説明します。

●TX SAVE機能

TX SAVE機能とは、送信時において相手局の信号がフルスケールで入感しているときには自動的に送信出力を下げ、電池の消耗を少なくする機能です。

(下表参照)



相手の送信が終わってから、2秒以内に送信を行わないと、TX SAVE機能は動作しません。

こちらは○○○です、どうぞ！ 了解しました！

2秒以内

送信出力		TX SAVEが動作すると
H1	➡	L2
L3	➡	L2
L2	➡	L1
L1	➡	L1

アドバイス

FTT-10/A06の場合は109ページの方法でTX SAVE機能の設定を行ってください。

1. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在設定してある動作状態（“on”または“off”）を表示します。

2. この状態でDIALツマミを操作すると、TX SAVE機能が

on ➡ off ➡ on ➡ off

の動作を繰り返しますので、希望する動作状態に設定します。

3. 設定終了後、 キーを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、TX SAVE機能の“ON/OFF”操作は完了します。

アドバイス

◎設定を中止したい場合は、PTTスイッチを押すことにより、中止することができます。

◎TX SAVE機能が“ON”のときには、送信中にディスプレイに“SAVE”の表示が点滅します。

◎TX SAVE機能はセットモードでも設定することができます。

詳しくは109ページをご覧ください。

●T.O.T(タイム・アウト・タイマー)機能

T.O.T機能とは約10分間連続送信を行うと、自動的に受信状態に戻り、不注意による連続送信のため、他局に混信を与えたり、セットの発熱等のトラブルを防ぐための機能です。

T.O.T機能が動作する(強制的に受信状態に戻る)約10秒前になると“ビビビッ”と警告音が鳴り、そのまま送信を続けると強制的に受信状態になります。工場出荷時は、T.O.T機能は“ON”に設定されていますが、117ページの操作を行うことにより、T.O.T機能を“OFF”にすることができます。

●受信中の送信禁止(BCLO)機能

BCLO機能とは、信号を受信中にPTTスイッチを押しても送信状態にならない機能で、相手局の送信が終わっていないのに、誤って送信することを防ぐことができます。

工場出荷時は、BCLO機能は“OFF”に設定されていますが、118ページの操作を行うことにより、BCLO機能を動作させることができます。

●音声録音機能 (FTT-10/A16Sのみ対応)

本機は、受信した音声や、マイクからの音声を最大で20秒間録音することができ、さらに、内蔵スピーカーで再生することはもちろんのこと、録音した音声を送信することができます。

また、信号を受信すると自動的に録音を開始する“自動録音機能”があります。



◎FTT-10/A16DおよびFTT-10/A06は音声録音機能を行うことはできません。

◎電源電圧が低下し、ディスプレイに“□”が点滅しているときは、正しく録音機能が動作しない場合があります。

◎録音時間の設定

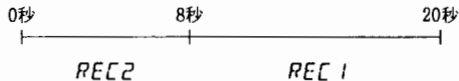
工場出荷時は、録音チャンネル“REC”に最大20秒間録音できるように設定してありますが、下記の操作を行うことにより、録音チャンネルを“REC 1”と“REC 2”の2チャンネルに分けることができ、それぞれのチャンネルの録音時間を1秒～10秒まで自由に設定することができます。



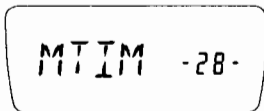
REC 1とREC 2の録音時間は、合計で20秒までです。



例えば、REC 2を8秒に設定した場合は、REC 1に設定できる時間は自動的に12秒に設定されます。



1. **DIALツマミ**を0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. **DIALツマミ**をまわすと、ディスプレイの表示が変化しますので、“**MTIM -28-**”にあわせます。



3. 再び**DIALツマミ**を押します。
4. **DIALツマミ**をまわすと、

off ➡ 1 ➡ 2 ➡ 3 ➡ 4 ➡ 5 ➡ 6 ➡ 7 ➡ 8 ➡ 9 ➡ 10



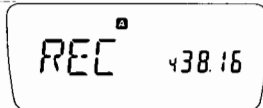
- と**REC2**に録音できる時間（秒）を設定できますので、希望の録音時間にあわせます。
5. 最後に**DIALツマミ**を押し、続けて**PTTスイッチ**を押して操作は終了です。

ディスプレイの表示	REC2に録音できる時間	REC1に録音できる時間
MTIM off	0秒	RECに20秒
MTIM 1	1秒	19秒
MTIM 2	2秒	18秒
MTIM 3	3秒	17秒
MTIM 4	4秒	16秒
MTIM 5	5秒	15秒
MTIM 6	6秒	14秒
MTIM 7	7秒	13秒
MTIM 8	8秒	12秒
MTIM 9	9秒	11秒
MTIM 10	10秒	10秒

◎録音のしかた

☆FT-10/40のマイクからの音声を“REC”または“REC 1”に録音する場合

1. キーボードの  キーを0.5秒以上押し続けます。



2. PTTスイッチを押し続けている間録音しますので、マイクに向かって話をしてください。

アドバイス ◎録音中は、ディスプレイに“MIC”および録音できる残り時間が表示されます。



録音できる残り時間(秒)

◎録音中にPTTスイッチを離すと、設定した録音時間に達しなくても、録音を中止することができます。

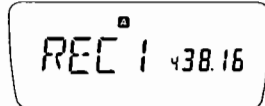
3. 以上で録音は終了です。

☆FT-10/40のマイクからの音声を“REC2”に録音する場合

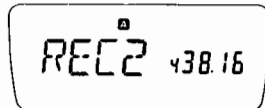


“録音チャンネル2 (REC2) の時間設定” (P. 34ページ) を行い、REC2にも録音できるようにする必要があります。

1. キーボードの  キーを0.5秒以上押し続けます。

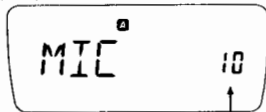


2. DIALツマミをまわして、“REC2”にあわせま



3. PTTスイッチを押し続けている間録音しますので、マイクに向かって話をしてください。

アドバイス ◎録音中は、ディスプレイに“MIC”および録音できる残り時間が表示されます。



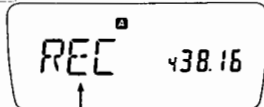
録音できる残り時間(秒)

◎録音中にPTTスイッチを離すと、設定した録音時間に達しなくても、録音を中止することができます。

4. 以上で録音は終了です。

☆FT-10/40で受信した音声を“REC”または“REC I”に録音する場合

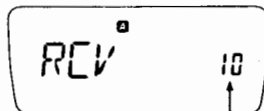
1. キーボードの  キーを0.5秒以上押し続けます。



または“REC I”の表示

2. MONIスイッチを押し続けている間録音を行います。

アドバイス ◎録音中は、ディスプレイに“RCV”および録音できる残り時間が表示されます。



録音できる残り時間(秒)

◎録音中にMONIスイッチを離すと、設定した録音時間に達しなくても、録音を中止することができます。

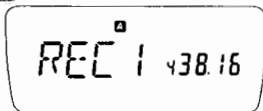
3. 以上で録音は終了です。

☆FT-10/40で受信した音声を“REC2”に録音する場合

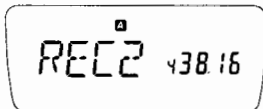


“録音チャンネル2 (REC2) の時間設定”
(125ページ)を行い、REC2にも録音できるようにする必要があります。

1. キーボードの  キーを0.5秒以上押し続けます。



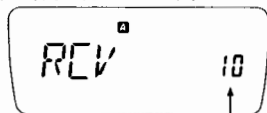
2. DIALツマミをまわして、“REC2”にあわせま
す。



3. MONIスイッチを押し続けている間録音を行います。

アドバイス

◎録音中は、ディスプレイに“REV”
および録音できる残り時間が表示されます。



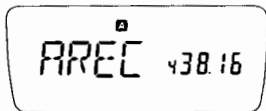
録音できる残り時間(秒)

◎録音中にMONIスイッチを離すと、設定した録音時間
に達しなくても、録音を中止することができます。

4. 以上で録音は終了です。

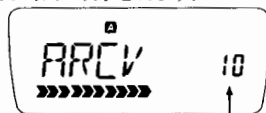
☆信号を受信した時、自動的に“REC”または“REC I”に録音する場合

1. キーボードの  キーを押した後に、続けて  キーを0.5秒以上押します。
2. ディスプレイに“AREC”が表示され、信号を受信すると自動的に録音を開始します。



アドバイス

◎録音中はディスプレイに“ARECV”および録音できる残り時間が表示されます。



録音できる残り時間(秒)

◎録音中に受信信号が無くなると、設定した録音時間に達しなくても、録音を中止します。

3.  キーを押すと自動録音機能は解除されます。



自動録音機能を解除しない限り、信号を受信するたびに、再び録音を開始します。

(前回録音された内容は消えてしまいます)

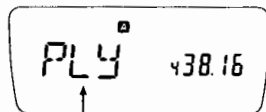
◎再生のしかた

☆“REC”または“REC I”に録音された音声を再生する場合

1. キーボードの  キーを0.5秒以上押し続けると、再生を開始します。

アドバイス

◎再生中は、ディスプレイに“PLY”または“PLY I”が表示されます。



または“PLY I”の表示

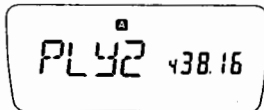
◎再生の途中で  キーを押すと、再生を中止することができます。

2. 以上で再生は終了です。

☆“REC2”に録音された音声を再生する場合

1. キーボードの  キーを押した後に、続けて  キーを0.5秒以上押し続けると再生を開始します。

アドバイス ◎再生中はディスプレイに“PLY2”が表示されます。



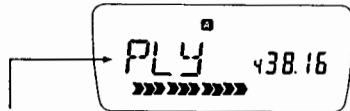
◎再生の途中で  キーを押すと、再生を中止することができます。

2. 以上で再生は終了です。

☆送信しながら“REC”または“REC1”に録音された音声を再生する場合

1. PTTスイッチを押して、送信状態にします。
2. PTTスイッチを押しながらDIALツマミをワンタッチで押すと、再生を開始します。

アドバイス ◎再生中は、ディスプレイに“PLY”または“PLY1”が表示されます。



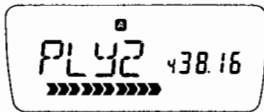
または“PLY1”の表示

- ◎再生中はPTTスイッチを離しても、送信状態は維持されます。
- ◎再生の途中でDIALツマミを押すと、再生を中止することができます。
- 3. 以上で再生は終了です。

☆送信しながら“REC2”に録音された音声を再生する場合

1. PTTスイッチを押して、送信状態にします。
2. PTTスイッチを押しながらDIALツマミを0.5秒以上押すと、再生を開始します。

アドバイス ◎再生中はディスプレイに“PLY2”が表示されます。



- ◎再生中はPTTスイッチを離しても、送信状態は維持されます。
- ◎再生の途中でDIALツマミを押すと、再生を中止することができます。
3. 以上で再生は終了です。

メモリー操作

本機には、運用周波数のほかにレピーター運用情報やトーンスケルチ運用情報なども同時に記憶することのできる、99チャンネル（チャンネル番号1～97、PL、PU）のメモリーチャンネルがあります。



FTT-10/A06のメモリーチャンネル数は30チャンネル（チャンネル番号1～28、PL、PU）です。

これらのチャンネルは最大で9グループに分けることができ、それぞれのグループのチャンネル数も、1～99チャンネル（FTT-10/A06は1～30チャンネル）まで自由に設定することができます。（☞ 114ページ）



それぞれのグループに設定したチャンネルの内、最後の2チャンネルは、プログラマブルメモリスキャン（☞ 60ページ）用のチャンネル（PL、PU）に割り当てられます。

メモリーチャンネルの表示を周波数表示だけではなく、最大4文字のアルファベットあるいは、数字なども一緒に表示させることができます。（☞ 101ページ）



（FTT-10/A16SまたはFTT-10/A16Dの場合）

- グループ1 ◆ 20チャンネルに設定（残り79チャンネル）
- グループ2 ◆ 15チャンネルに設定（残り64チャンネル）
- グループ3 ◆ 25チャンネルに設定（残り39チャンネル）
- グループ4 ◆ 5チャンネルに設定（残り34チャンネル）
- グループ5 ◆ 2チャンネルに設定（残り32チャンネル）
- グループ6 ◆ 12チャンネルに設定（残り20チャンネル）
- グループ7 ◆ 10チャンネルに設定（残り10チャンネル）
- グループ8 ◆ 4チャンネルに設定（残り 6チャンネル）
- グループ9 ◆ 6チャンネルに設定（残り 0チャンネル）



◎それぞれのグループに設定されたチャンネル数の合計は、99チャンネル（FTT-10/A06は30チャンネル）を超えることはできません。

◎本機は、工場出荷時には、グループ1に30チャンネルのみを設定しています。

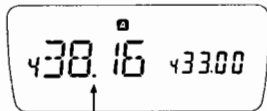
●メモリーセット

◎シンプレックス・メモリー操作

メモリーチャンネルに送受信周波数が同じ周波数をメモリーする操作です。

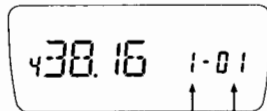
1. メモリーしたい周波数を設定します。

(24ページ)



メモリーしたい周波数

2. キーボードの キーを 0.5秒以上押し続けるとディスプレイに点滅するメモリーグループ番号とチャンネル番号が現れます。



メモリーグループ番号

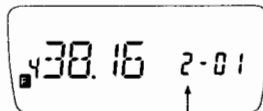
メモリーチャンネル番号

3. グループ番号とチャンネル番号が点滅している間(約5秒間)に キーを押し、続けてDIALツマミをまわしてメモリーしたいメモリーグループの番号にあわせます。



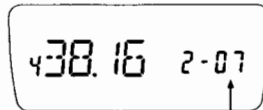
工場出荷時には、メモリーグループは1だけに設定されています。

114ページの操作を行ってメモリーグループの設定を行ってください。



メモリーしたいグループ番号にあわせる

4. グループ番号が決まりましたら、 キーを押し、DIALツマミをまわして、メモリーしたいメモリーチャンネル番号にあわせます。



メモリーしたいチャンネル番号にあわせる

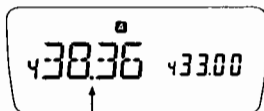
5. キーを押して、シンプレックス・メモリー操作は完了します。

◎セミデュプレックス・メモリー操作

受信周波数と送信周波数が異なる2つの周波数を、

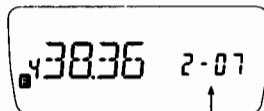
1つのメモリーチャンネルにメモリーする操作です。

1. まず初めに、前記で説明した“シンプレックス・メモリー操作”の方法で、受信周波数をメモリーします。
2. つぎに、送信周波数を設定します。



送信周波数

3. キーボードの  キーを0.5秒以上押し続けるとディスプレイに点滅するメモリーグループ番号とチャンネル番号が現れます。
4. グループ番号とチャンネル番号が点滅している間(約5秒間)に  キーを押し、続けてDIALツマミをまわして受信周波数をメモリーしたグループの番号およびチャンネルにあわせませす。



受信周波数を

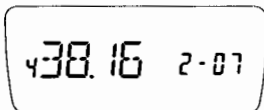
メモリーしたグループおよびチャンネル

5. PTTスイッチを押しながら  キーを押します。
6. 以上でセミデュプレックス・メモリー操作は完了です。

●メモリーチャンネルの呼び出し操作

メモリーチャンネルにメモリーされているデータを呼び出して運用する方法です。なお、メモリーチャンネルにメモリーされているデータで運用することを、“メモリーモード”と呼びます。

1. キーボードの  キーを押すとディスプレイにメモリーチャンネル番号が点灯し、メモリーチャンネルが呼び出されます。



2. DIALツマミを操作すると、メモリーしてあるメモリーチャンネルのみが順番に呼び出されますので、希望するメモリーチャンネルにあわせめます。

アドバイス ◎  キーを押した後にDIALツマミをまわすことにより、メモリーグループを変更することができます。

- ◎セミデュプレックス・メモリーしたメモリーチャンネルを呼び出すと、ディスプレイに“ ”の表示が点灯します。また、このときにキーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、送受信周波数を一時的に反転することができます（リバース運用：リバース運用時には、ディスプレ

イの“ ”表示は点滅します。

もう一度  キーと  キーを続けて順に押すと、リバース運用は解除されます。

●メモリーモード時の付属機能

○メモリーモードの内容をVFOモードに移動する

1.  キーを0.5秒以上押し続けます。
2. メモリー番号が点滅している間(約5秒間)に、
 キーを押します。
3. 以上でメモリーモードの内容をVFOモードに移すことができます。

○ダイレクト呼び出し操作

(FTT-10/ A16SまたはFTT-10/ A16Dのみ対応)

キーボードの数字キーでメモリーチャンネルを直接呼び出すことができる操作で、呼び出したいメモリーチャンネルの番号をキーボードの数字キーで入力すれば、希望するメモリーチャンネルをダイレクトで呼び出すことができます。

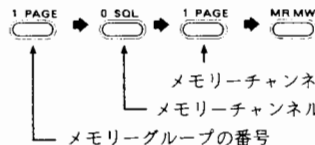


FTT-10/ A06はダイレクト呼び出し操作を行うことはできません。



メモリーグループ“1”のチャンネル“01”を呼び出す場合

キーボードの数字キーを



の順で押します。

アドバイス

◎同じメモリーグループ内のチャンネルを呼び出す時は、グループ番号の入力は必要ありません。



メモリーチャンネル“3-02”を受信しているときに、“3-07”を呼び出す場合

キーボードの数字キーを



または



の順で押します。

- ◎メモリーチャンネル“PL, PU”は、下表に示すチャンネル番号で呼び出すことができます。
グループ1に30チャンネルが設定されている場合は

1-01	➡	1 PAGE	➡	0 SQL	➡	1 PAGE	➡	MR MW
1-02	➡	1 PAGE	➡	0 SQL	➡	2 CODE	➡	MR MW
1-03	➡	1 PAGE	➡	0 SQL	➡	3 OTMF	➡	MR MW
↓								
1-28	➡	1 PAGE	➡	2 CODE	➡	8 TX SAVE	➡	MR MW
1-PL	➡	1 PAGE	➡	2 CODE	➡	0 BEEP	➡	MR MW
1-PU	➡	1 PAGE	➡	3 DTMF	➡	0 SQL	➡	MR MW

- ◎下記に示すメモリーチャンネルは、ダイレクト呼び出し操作では呼び出すことはできません。
★メモリーしていないメモリーグループやチャンネル
★メモリーチャンネル“1-123”のように、本機には存在しないメモリーチャンネル

○メモリーチューン機能

メモリーチューン機能とは、メモリーチャンネルにメモリーされている運用周波数（セミデュプレックス・メモリー操作をしたメモリーチャンネルは受信周波数）を、一時的に可変することができる機能です。

1. メモリーモードで運用中にキーボードの  キーを押すと、ディスプレイに“MT”の表示が点灯してメモリーチューン機能が動作します。
2. メモリーチューン機能が動作しているときに“運用周波数の設定操作”（☞ 24ページ）を行なうと、メモリーチャンネルにメモリーされている運用周波数（セミデュプレックス・メモリーをしたメモリーチャンネルは受信周波数）を一時的に変えることができます。



メモリーチューン時のステップ幅は、メモリーするときに使用したVFO（AまたはB）に設定してあったステップ幅になります。

3. メモリーチューン機能は、キーボードの  キーを再度押すことにより解除することができます。

アドバイス

メモリーチューン機能と同様に、メモリーチャンネルにメモリーしたレピーター運用情報やトーンスケルチ運用情報なども、一時的に変更することができます。

○メモリーチャンネルクリア操作

メモリーチャンネルクリア操作とは、メモリーチャンネルにメモリーした情報を、一時的に消去する機能です（ただし、メモリーチャンネル“1-01”を除く）。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続け、セットモードにします。
2. DIALツマミをまわして“MCLR-04-”にあわせませす。

A rectangular LCD display showing the text "MCLR -04-" in a digital font.

3. DIALツマミを押すと、“SET ***”または“CLR ***”が表示されます。

A rectangular LCD display showing the text "SET ***" in a digital font.

4. DIALツマミをまわして消去したいメモリー番号にあわせませす。

アドバイス メモリーされているチャンネルでは“SET”が、メモリーされていないチャンネルでは“CLR”がそれぞれディスプレイに表示されます。

5. DIALツマミを押した後、DIALツマミをまわして“CLR”にあわせませす。

A rectangular LCD display showing the text "CLR ***" in a digital font.

6. この状態でDIALツマミを押すと、メモリーチャンネルは一時的に消去されます。
7. 最後にPTTスイッチを押してメモリー消去操作は終了です。

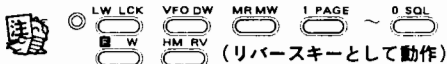
アドバイス メモリーチャンネルクリア操作を行ったメモリーチャンネルは、上記1.～7.の操作を繰り返すことにより、呼び戻すことができます。

○メモリーオンリーモード

本機の動作をメモリーモードでのみ動作させる方法で、ディスプレイの表示を周波数表示ではなく、下に示すようにチャンネル表示で行います。



タグ機能 (50ページ) で文字を設定している場合は設定した文字を表示します



PTTスイッチ、MONIスイッチ、LAMPスイッチおよび音声録音機能 (34ページ) 以外の操作ができなくなります。

1. PWRスイッチを0.5秒以上押して、電源を“OFF”にします。
2. PTTスイッチとLAMPスイッチを同時に押しながら、PWRスイッチを押して、電源を“ON”にします。
3. 以上でメモリーオンリーモードに切り替わります。

メモリーチャンネルは、DIALツマミをまわすか、または呼び出したいメモリーチャンネル番号をキーボードで入力することにより、変更することができます。



FTT-10/A06はダイヤルツマミでの呼び出ししできません。



メモリーチャンネル2-07を呼び出すとき
キーボードより

2 CODE → 0 SOL → 7 STEP と入力します。

メモリーオンリーモードでのデュアルレシーブ操作

VFO DW キーを押すことにより、デュアルレシーブ機能が動作します。デュアルレシーブ動作中は、ディスプレイに“DW”が表示します。

再び VFO DW キーを押すことにより、デュアルレシーブ機能を解除することができます。

デュアルレシーブ機能については、62ページを参照してください。

メモリーオンリーモードの解除

1. PWRスイッチを0.5秒以上押して、電源を“OFF”にします。
2. PTTスイッチとLAMPスイッチを同時に押しながら電源を“ON”にします。
3. 以上でメモリーオンリーモードは解除され、メモリーモードに切り替わります。

○タグ機能

タグ機能とは、メモリーチャンネルの表示を、チャンネル番号表示ではなく最大4文字のアルファベットなどで表示させる機能のことで、クラブチャンネルの周波数をメモリーしたメモリーチャンネルをグループネームで表示したりすることができます。

通常

438.16 2-07

タグ機能を使用すると

FT40 438.16

文字を表示 周波数を表示

なお、タグ機能で利用できる文字等は、下表に示す48種類です。

タグ機能で表示できる文字													
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B		
C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N		
O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z		
スペース	(	)	+	-	=	*	/	Δ	μ	Σ	!		

1. まず初めに、タグ表示させたいメモリーチャンネルを呼び出します。(45ページ)

438.16 2-07

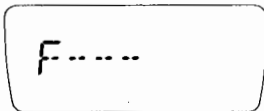
2. DIALツマミを0.5秒以上押し続け、セットモードにします。
3. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を"NAME -03-"にあわせませう。

NAME -03-

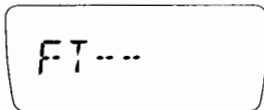
4. DIALツマミを押すと、ディスプレイの表示が"NAME OFF"に変わりますので、DIALツマミをまわして"on"にあわせませう。

- - - - - on

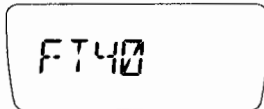
5. この状態でDIALツマミを押すと、1番目の文字を設定できるようになりますので、前ページの表を参考にして、DIALツマミをまわし、表示させたい1番目の文字に合わせます。



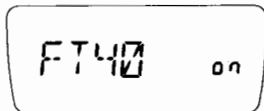
6. 再びDIALツマミを押すと、次の桁の文字設定が行えるようになりますので、DIALツマミをまわして表示させたい文字に合わせます。



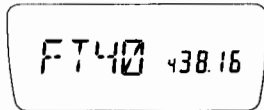
7. 上記6.の操作を繰り返し、最後の文字まで設定して行きます。



8. 最後の文字の設定が完了しましたら、DIALツマミを押します。



9. 最後にPTTスイッチを押して、タグ設定は終了です。



アドバイス

- ◎タグ表示になっているメモリーチャンネルでメモリーチューン操作を行うと、タグ表示は一時的に解除され、運用周波数表示になります。
- ◎タグ表示になっているメモリーチャンネルは、下記に示す操作を行うと、運用周波数表示に戻ります。
1. まず初めに、周波数表示に戻したいメモリーチャンネルを呼び出します。
 2. DIALツマミを0.5秒以上押し続け、セットモードにします。
 3. DIALツマミをまわしてディスプレイの表示を“NAME-03-”にあわせます。
 4. DIALツマミを押すとディスプレイに現在設定してある文字と“00”が表示されます。

5. この状態でDIALツマミをまわして“OFF”にあわせます。
6. DIALツマミを押し、最後にPTTスイッチを押して、操作は終了です。

●メモリーモードの解除

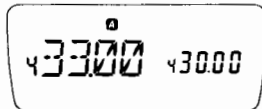
キーボードの  キーを押すとVFOモードに切り換わります。

ホームチャンネル操作

本機には、 キーを押すだけで、登録内容を呼び出すことができる、書き換え可能なホームチャンネルが1つあります。

●ホームチャンネルの呼び出し操作

キーボードの  キーを押すと、ワンタッチでホームチャンネルが呼び出せます。ホームチャンネルを呼び出しているときには **HOME** の表示がディスプレイに点灯します（工場出荷時には、145.00MHzまたは433.00MHzの周波数がプリセットしてあります）。



◎HOME/REV選択操作（☞ 116ページ）でREV

に設定してある場合は、 キーを押した後に続けて  キーを押すことにより、ホームチャンネルを呼び出すことができます。

◎ホームチャンネルはメモリーチャンネルと同様に、運用周波数のほかにレピーター運用情報やトーンスケルチ運用情報なども同時に設定することができます。またこれらの情報はホームチャンネル呼び出し中に、一時的に変更することができます。

◎ホームチャンネル呼び出し時に“運用周波数の設定操作”（☞ 24ページ）を行なうと、ホームチャンネルに移る前に使用していたVFO（AまたはB）に切り換わってVFOモードになり、ホームチャンネルの周波数を一時的に変更することができます。

●ホームチャンネルセット

◎シンプレックス・セット

ホームチャンネルに送受信周波数が同じ周波数をセットするための操作です。

1. VFOモードにおいて、希望のホームチャンネル周波数を設定します。(24ページ)
2. キーボードの  キーを0.5秒以上押し続けるとディスプレイに点滅するメモリーチャンネル番号が現れますので、続けてキーボードの  キーを押します。
3. 以上でホームチャンネルに、希望する周波数が設定されます。

◎セミデュプレックス・セット

受信周波数と送信周波数が異なる2つ周波数を、1つのホームチャンネルにセットする操作です。

1. まず初めに、前記で説明した“シンプレックス・セット”の方法で、ホームチャンネルに希望する受信周波数をセットします。
2. つぎに、送信周波数を設定します。
3. キーボードの  キーを0.5秒以上押し続けると再びメモリーチャンネルの番号がディスプレイに点滅しますので、PTTスイッチを押しながら再度  キーを押します。

4. 以上でホームチャンネルに、受信周波数と送信周波数が異なる2つの周波数が同時に設定されます。

アドバイス ホームチャンネルにセミデュプレックス・セットを行なった場合には、ホームチャンネル呼び出し時に、ディスプレイに“  ”の表示が点灯します。また、このときにキーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、送受信周波数を一時的に反転することができます(リバース運用：リバース運用時には、ディスプレイの“  ”表示は点滅します)。

再度  キーと  キーを続けて順に押すと、リバース運用は解除されます。

●ホームチャンネル運用の解除

キーボードの  キーを押すと、ホームチャンネル運用に移る前に設定してあった状態(VFOモードまたはメモリーモード)に戻ります。

スキャン操作

スキャン操作とは、信号が入感する周波数またはメモリーチャンネルを自動的に捜し出す操作です。

本機はVFO 周波数とメモリーチャンネルを、“5秒スキャン”と“キャリアスキャン”の2種類のスキャンレジュームでスキャンコントロール操作が行なえます。



スキャン操作を行なうときには、あらかじめ、次に示す“スキャンレジュームの選択操作”を参考に、希望するスキャンレジュームに設定しておきます。（工場出荷時には5秒スキャンに設定してあります）

●スキャンレジュームの選択操作

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“RESM-10-”にあわせます。

RESM - 10 -

3. DIALツマミを押すとディスプレイの表示が現在の状態を表示しますので、DIALツマミをまわし、下記を参考にして希望の動作状態に設定します。

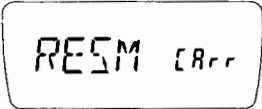
◎5秒レジューム（“5”の表示）

★スキャン中に信号が入感すると、スキャンが自動停止してその周波数またはチャンネルを約5秒間受信し、その後再びスキャンを開始します。ただし自動停止中でも、信号が無くなると約1秒後に再びスキャンを開始する方法です。

RESM 5

◎キャリアレジューム (“[Rrr]" の表示)

★スキャン中に信号が入感すると、スキャンが自動停止してその周波数またはチャンネルを信号が無くなるまで継続して受信し、信号が無くなると約1秒後に再びスキャンを開始する方法です。



RESM [Rrr]

4. DIALツマミを押した後、PTTスイッチを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、スキャンレジュームの選択操作は完了します。

アドバイス 設定を途中で中止したい時は、PTTスイッチを押してください。

●VFO周波数スキャン

VFOモードでスキャンコントロールを行なう操作で、信号が入感する周波数を自動的に捜し出すことができます。

1. VFOモードで運用中にキーボードの  キーを0.5秒以上押し続けると、自動的に運用周波数が高い方に変化し、順番に周波数をスキャン(連続受信)して行きます。
2. スキャン中に信号が入感するとスキャンが一時停止し、まえもって設定したスキャンレジュームの条件を満たすと、再びスキャンを開始します。
なお、スキャンが一時停止しているときには、周波数表示部のMHz桁の小数点(デシマルポイント)が点滅します。

アドバイス ◎スキャン中にDIALツマミをまわすと、スキャン方向を変えることができます。
(左まわし◆低い方に 右まわし◆高い方に)

◎スキャンが一時停止しているときにDIALツマミをまわすと、スキャンレジュームの条件を満たさなくても直ちにスキャンを再開します
(左まわし◆低い方に 右まわし◆高い方に)

3. VFO周波数スキャン操作は、次のいずれかの方法で解除できます。

★PTTスイッチをワンタッチで押す（この場合はスキャン操作が解除されるだけで、送信状態にはなりません）。

★キーボードの  キーを押す。

★キーボードの  キーを押す（メモリーモードに移行します）。

★キーボードの  キーを押す（ホームチャンネルに移行します）。

●メモリーチャンネルスキャン

◎メモリーチャンネルスキャンコントロール

メモリーモードでスキャンコントロールを行なう操作で、信号が入感するメモリーチャンネルを自動的に捜し出すことができます。

1. スキャンさせたいメモリーグループを呼び出します。
2. キーボードの  キーを0.5 秒以上押し続けると、メモリーしてあるメモリーチャンネルだけを順にスキャン（連続受信）して行きます。



◎メモリーチューン機能が動作しているときにスキャン操作を行なうと、VFO

周波数スキャン操作と同じように、現在運用している周波数を中心にスキャンして行きます。

◎メモリースキャンは、スキャンを開始したグループ内だけをスキャンします。

3. スキャン中に信号が入感するとスキャンが一時停止し、まえもって設定したスキャンレジュームの条件を満たすと、再びスキャンを開始します。
なお、スキャンが一時停止しているときには、周波数表示部のMHz桁の小数点（デシマルポイント）が点滅します。

アドバイス

スキャンが一時停止しているときにDIALツマミをまわすと、スキャンレジュー

ムの条件を満たさなくても直ちにスキャンを再開します。

(左まわし◆低い方に 右まわし◆高い方に)

4. メモリーチャンネルスキャンコントロール操作は、次の方法で解除できます。

★PTTスイッチをワンタッチで押す(この場合はスキャン操作が解除されるだけで、送信状態にはなりません)

★キーボードの  キーを押す(メモリーモードに移る前に使用していたVFO(AまたはB)に移行します)

★キーボードの  キーを押す(ホームチャンネルに移行します)

★キーボードの  キーを押す(押したときのメモリーチャンネルで停止します)

◎メモリーチャンネルスキャンスキップ

指定したメモリーチャンネルはスキャン(受信)せずに、希望するメモリーチャンネルだけを順にスキャン(連続受信)する方法です。



メモリーチャンネル 1-01 から 1-10 まです

べてにメモリーされている場合

通常メモリースキャン操作を行うと

1-01 ◆ 1-02 ◆ 1-03 ◆ 1-04 ◆ 1-05 ◆
1-06 ◆ 1-07 ◆ 1-08 ◆ 1-09 ◆ 1-10

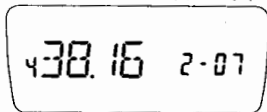
と順番にスキャンを行いますが、スキャンを行わなくてもよい(受信しなくてもよい)チャンネル(例えば 1-03, 1-05, 1-06, 1-09)を指定すると、

1-01 ◆ 1-02 ◆ 1-04 ◆
1-07 ◆ 1-08 ◆ 1-10

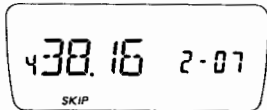
とスキャンを行います。

メモリーチャンネルスキャン操作を行うまえに、下記の手順でスキップさせたいメモリーチャンネルを設定します。

1. まず初めに、スキップさせたい（受信したくない）メモリーチャンネルを呼び出します。



2. ここで、キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイに“SKIP”の表示が点灯してスキップセット操作が完了します。



3. 上記1., 2.の操作を繰り返し、スキップさせたいすべてのメモリーチャンネルにスキップセットを行ないます。
4. この状態でスキャン操作を行なう（ 55ページ）と、スキップセットを行なったメモリーチャンネルはスキップして（受信せずに）、スキャンが始まります。

5. スキップセットを行なったメモリーチャンネルは、上記1., 2.の操作を繰り返すことにより、スキップは解除されます（ディスプレイの“SKIP”表示が消灯します）。

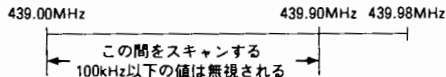
●プログラマブルメモリスキャン (PMS) 操作

プログラマブルメモリスキャン (PMS) 操作とは、メモリーチャンネル“PL”と“PU”にメモリーした受信周波数の間をスキャン（連続受信）する操作で、特定の周波数範囲（たとえばJARLが定めたレピーター用出力周波数帯）だけをスキャン操作することができます。



メモリーチャンネル“PL”に439.00MHzが“PU”に439.98MHzがメモリーしてある場合。

PMS操作を行うと



1. まず最初に、メモリーチャンネル“PL”にスキャンの下限周波数、メモリーチャンネル“PU”にスキャンの上限周波数をメモリーします。

(43ページ)



◎上限周波数、下限周波数の設定は、必ずメモリーチャンネル“PL”にスキャンの下限周波数、メモリーチャンネル“PU”にスキャンの上限周波数をメモリーしてください。逆に設定

した場合には、PMSは動作しません。また、上限周波数と下限周波数の間は、必ず100kHz以上あけるようにしてください。

◎メモリーチャンネル“PL”または、メモリーチャンネル“PU”のどちらかにメモリーチャンネルスキップ（58ページ）がセットしてあると、PMSは動作しません。

2. メモリーチャンネルの“PL”または“PU”チャンネルを呼び出し、キーボードの  キーを押してメモリーチューン機能を動作させます。
(ディスプレイに“MT”が点滅します)
3. この状態でキーボードの  キーを0.5秒以上押し続けると、上記1.の項で設定した上限周波数と下限周波数の間を連続的にスキャンします。



PMS動作時には、上記2.項で呼び出したメモリーチャンネルにメモリーされているステップ幅で、周波数が連続的に変化します。

4. スキャン中に信号が入感するとスキャンが一時停止し、まえもって設定したスキャンレジュームの条件を満たすと、再びスキャンを始めます。
なお、スキャンが一時停止しているときには、周波数表示部のMHz桁の小数点（デシマルポイント）が点滅します。

アドバイス スキャンが一時停止しているときに
DIALツマミをまわすと、スキャンレジュームの条件
を満たさなくても直ちにスキャンを再開します。

(左まわし ➡ 低い方に 右まわし ➡ 高い方に)

5. 一時停止しているPMSは、次の方法により完全に
停止します。



プログラマブルメモリースキャン (PMS) が
動作中は、DIALツマミの周波数可変範囲およ
びDIRECT TUNING操作時のキー入力範囲も、前項で
設定した上限周波数と下限周波数の間だけになります。

6. プログラマブルメモリースキャン (PMS) は、次
のいずれかの方法により解除できます。

★PTTスイッチをワンタッチで押す (この場合はスキャン
が完全停止するだけで、送信状態にはなりません)

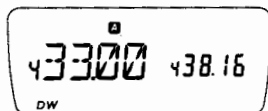
★キーボードの  キーを押す (PMSを始める前
に使用していたVFO (AまたはB) に移行します)。

★キーボードの  キーを押す (メモリーモード
に移行します)。

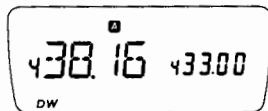
★キーボードの  キーを押す (ホームチャンネル
に移行します)。

デュアルレシーブ機能

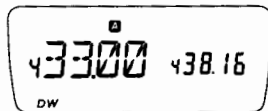
デュアルレシーブ機能とは、VFOモード時、メモリーモード時、またはホームチャンネル運用時で受信中に、約5秒間に1回メモリーチャンネルを優先的に約200mS受信する“優先チャンネル監視機能”です。



5秒受信



0.2秒受信



繰り返す

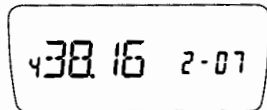
●VFOモード時のデュアルレシーブ操作

VFOモード時にデュアルレシーブ機能を動作させて、VFOで設定した周波数を受信しながら指定したメモリーチャンネルを約5秒間に1回、優先的に受信する操作です。

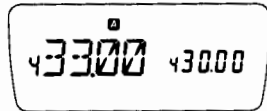
アドバイス デュアルレシーブ機能が動作中でも、下記の操作を行うことができます。

- ・送信操作（ただし送信中は、優先チャンネルを受信することはできません）
- ・VFOの周波数を変える
- ・スキャン操作

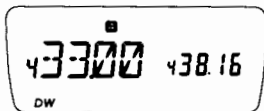
1. デュアルレシーブしたいメモリーチャンネル（優先チャンネル）を呼び出します。（ 45ページ）



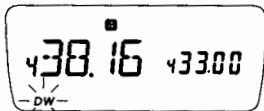
2. キーボードの キーを押して、一度VFOモードに戻します。



3. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイに“DW”の表示が点灯してデュアルレシーブ機能が動作を始めます。



4. スキャンコントロール操作と同じように、優先チャンネルに信号が入感するとデュアルレシーブ機能が一時停止して優先チャンネルを受信し、スキャンレジュームの条件（ 55ページ）を満たすと、再びデュアルレシーブ機能が動作を始めます。なお、デュアルレシーブ機能が一時停止しているときには、“DW”表示が点滅します。



5. 優先チャンネルを受信しているときに送信すると、デュアルレシーブ機能は自動的に解除されて、メモリーチャンネル（優先チャンネル）での送受信操作に切り換わります。

●メモリーモード時のデュアルレシーブ操作

メモリーモード時にデュアルレシーブ機能を動作させて、任意のメモリーチャンネルを受信しながらメモリーチャンネル“1-01”にメモリーした周波数を約5秒間に1回、優先的に受信する操作です。

1. メモリーチャンネル“1-01”にデュアルレシーブ受信したい周波数をメモリーします。

（ 43ページ）

2. 任意のメモリーチャンネルを呼び出します。

（ 45ページ）

3. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイに“DW”の表示が点灯してデュアルレシーブ機能が動作を始めます。

アドバイス デュアルレシーブ機能が動作中でも、下記の操作を行うことができます。

- ・送信操作（ただし送信中は、優先チャンネルを受信することはできません）
- ・メモリーチャンネルの変更
- ・スキャン操作

4. スキャンコントロール操作と同じように、優先チャンネルに信号が入感するとデュアルレシーブ機能が一時停止して優先チャンネル（メモリーチャンネル“1-01”）を受信し、スキャンレジュームの条件（ 55ページ）を満たすと再びデュアル

レシーブ機能が動作を始めます。

なお、デュアルレシーブ機能が一時停止しているときには、“DW”表示が点滅します。

5. 優先チャンネル（メモリーチャンネル“1-01”）を受信しているときに送信すると、デュアルレシーブ機能は自動的に解除されて、メモリーチャンネル“1-01”（優先チャンネル）での送受信操作に切り換わります。

●ホームチャンネル時の

デュアルレシーブ操作

ホームチャンネル時にデュアルレシーブ機能を動作させて、ホームチャンネルを受信しながら指定したメモリーチャンネルを約5秒間に1回、優先的に受信する操作です。

1. デュアルレシーブしたいメモリーチャンネル（優先チャンネル）を呼び出します。（☞ 45ページ）
2. ホームチャンネルを呼び出します。（☞ 53ページ）
3. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイに“DW”の表示が点灯してデュアルレシーブ機能が動作を始めます。

アドバイス デュアルレシーブ機能が動作中でも、下記の操作を行うことができます。

- ・送信操作（ただし送信中は、優先チャンネルを受信することはできません）
 - ・周波数を変える
 - ・スキャン操作
4. スキャンコントロール操作と同じように、優先チャンネルに信号が入感するとデュアルレシーブ機能が一時停止して優先チャンネルを受信し、スキャンレジャーの条件（☞ 55ページ）を満たすと、再びデュアルレシーブ機能が動作を始めます。
- なお、デュアルレシーブ機能が一時停止している

ときには、“DW”表示が点滅します。

5. 優先チャンネルを受信しているときに送信すると、デュアルレシーブ機能は自動的に解除されて、メモリーチャンネル（優先チャンネル）での送受信操作に切り換わります。

●デュアルレシーブ操作の解除

デュアルレシーブ操作は、次に記すいずれかの方法により解除できます。

★キーボードの  キーを押す（VFOモードに移行します）。

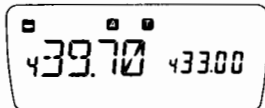
★キーボードの  キーを押す（メモリーモードに移行します）。

★キーボードの  キーを押す（ホームチャンネルに移行します）。

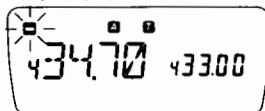
レピーター運用 (FT-40のみ使用できる機能です)

本機はARS (Automatic Repeater Shift) 機能により、受信周波数をレピーター局の出力 (送信) 周波数にあわせるだけで、簡単にレピーター運用が行えます。

1. 受信周波数をレピーター局の出力 (送信) 周波数にあわせず、受信周波数をJARLが制定したレピーター用出力周波数帯の中に設定すると、ディスプレイに“**■**”と“**T**”の表示が点灯してレピーター運用が行えます。

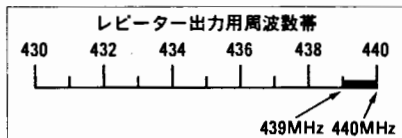


2. この状態で送信すると、88.5Hzのトーン信号を発しながら受信信号より5MHz低い周波数で送信状態になり、レピーター局をアクセスすることができます。
3. レピーター局を経由して受信しているときに、キーボードの **W** キーと **HM RV** キーを続けて順に押すと、ディスプレイの“**■**”表示が点滅して送受信周波数が反転し、相手局がレピーター局に向けて送信している信号を受信することができます。



十分な強さで受信できるような場合には、レピーター局を経由せずに直接交信 (シンプレックス) することができます。もう一度 **W** キーと **HM RV** キーを続けて順に押すと、元の周波数関係に戻ります。

4. 受信周波数をレピーター用出力周波数帯の外に設定すると、ディスプレイの“**■**”と“**T**”の表示が消灯して、通常のシンプレックス運用に変わります。



アドバイス ◎レピーター運用中にメモリーセット操作 (43ページ) を行なうと、運用周波数とともにレピーター運用情報もメモリーすることができます。

◎レピーター運用情報は、ホームチャンネルにも設定することができます。

◎将来シフト方向の異なるレピーター局やJARLが制定した周波数帯以外の周波数にレピーター局が開局

したときには、次ページの“送信オフセット運用”によりレピーター局をアクセスしてください。

- ◎本機のARS機能は、受信周波数がJARLが制定したレピーター用出力周波数帯の中にはいってもレピーター運用状態にならないように“OFF”にすることができます。詳しくは、104ページの“ARS機能の“ON/OFF”操作”をご覧ください。

送信オフセット運用

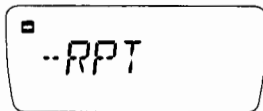
送信オフセット運用とは、将来シフト方向の異なるレピーター局やJARLが制定した周波数帯以外の周波数にレピーター局が開局したときのように、受信周波数に対して送信周波数をあらかじめ決めておいた周波数（シフト幅）だけ希望する方向（シフト方向）にシフトさせて運用する方法です。なお、送信オフセット運用を行なうためには、106ページの“シフト幅の設定操作”により、あらかじめシフト幅を希望する値に設定しておきます。

アドバイス FTT-10/A06の場合は105ページの方法でシフト方向の設定を行ってください。

1. まず初めに、受信周波数を設定します。

(☞ 24ページ)

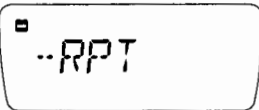
2. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、現在設定されている状態を表示します。



3. この状態でDIALツマミをまわすと

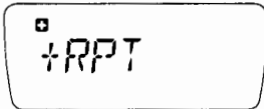
マイナスシフト

★ディスプレイに“ ”の表示が点灯し、受信周波数に対して送信周波数がシフト幅の値だけ低くなります。



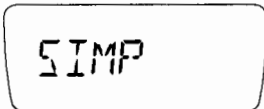
プラスシフト

★ディスプレイに“ ”の表示が点灯し、受信周波数に対して送信周波数がシフト幅の値だけ高くなります。



シンプレックス

★受信周波数と送信周波数が同一になります。



の動作を繰り返しますので、希望のシフト方向に設定します。

4. 設定終了後、再度  キーを押すと、ディスプレイの表示は運用周波数にもどり、操作は終了です。
5. この状態で送信すると、上記2.の項で設定した周波数関係が成り立つ周波数で送信状態になり、送受信周波数が異なるシフト運用が行えます。
- また、このときにキーボードの  キーと  キーを続けて順に押せば、送受信周波数を一時的に反転することができます（リバース運用：リバース運用時には、ディスプレイの“ ”または“ ”表示が点滅します）。
- 再度  キーと  キーを続けて順に押せば、リバース運用は解除されます。

アドバイス

- ◎送信オフセット運用中にメモリーセット操作（ 43ページ）を行うと、運用周波数とともに送信オフセット運用情報も同時にメモリーすることができます。
- ◎送信オフセット運用情報は、ホームチャンネルにも設定することができます。
- ◎送信オフセット運用でレピーター局をアクセスするためには、シフト幅を“5MHz”，シフト方向を“マイナスシフト”に設定するとともに、送信時に88.5Hzのトーン信号が出力されるように、本機を“トーンエンコーダー運用”の状態（ 69ページ）に設定します。

トーンスケルチ運用

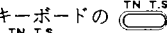
●トーンスケルチ運用

トーンスケルチ運用とは、特定局を対象に“待ち受け/呼び出し操作”が行える運用方法のことです。

なお、トーンスケルチ運用を行うためには、70ページの“トーン周波数の選択操作”により、あらかじめ自局と相手局とのトーン周波数を、同じ周波数に設定しておきます。



自局と相手局のトーン周波数が同じでないと、トーンスケルチ運用を行うことはできません。

1. キーボードの  キーを押すと、運用状態が  キーを押すたびに下記のように変化しますので、運用状態をトーンスケルチ運用に設定して交信を行ないます。

トーンエンコーダー運用（右記参照）



トーンスケルチ運用（右記参照）



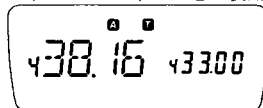
DCS運用（72ページ参照）



トーンエンコーダー運用/トーンスケルチ運用/
DCS運用解除

トーンエンコーダー運用

- ★ディスプレイに“**T**”の表示が点灯し、送信時に音声信号とともに“トーン周波数の選択操作”（ 70ページ）で設定した周波数のトーン信号を連続して送信します。なお、この運用方法は前述の“送信オフセット運用”（ 67ページ）と併用して、レピーター局をアクセスするときに使用します。



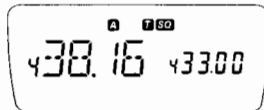
トーンスケルチ運用

（FTT-10/A16SまたはFTT-10/A16Dのみ）

- ★ディスプレイに“**T**”と“**SO**”の表示が点灯し、送信時にはトーンエンコーダー運用時と同様に音声信号とともにトーン信号を連続して送信し、相手局のトーンスケルチ回路のスケルチを開けて相手局を呼び出すことができます（呼び出し操作）。また、受信時には、設定したトーン周波数と同じ周波数のトーン信号を伴った信号を受信したときのみトーンスケルチ回路のスケルチが開き、相手局の信号を受信することができます（待ち受け操作）。

なお、トーン周波数の異なる信号やトーン信号を含まない信号では、トーンスケルチ回路が開かず受信することができませんが、**BUSY/TX**インジケータが緑色に点灯し、**S**メーターが点滅して信号が入感していることを知らせます。

また、このときに**MONI** (T.CALL/ MONI選択でT.CALLに設定している場合を除く) **スイッチ**を押せば、その信号を押している間だけ受信することができます。



アドバイス ◎トーンスケルチ運用または、DCS運用中にメモリーセット操作 (43ページ) を行うと、運用周波数とともにトーンスケルチ運用やDCS運用情報も、同時にメモリーすることができます。

◎トーンスケルチ運用やDCS運用情報はホームチャンネルにも設定することができます。 (53ページ)

●トーン周波数の選択操作

1. トーンエンコーダー運用または、トーンスケルチ運用のとき、キーボードの キーと キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在設定しているトーン周波数を表示しますので、**DIALツマミ**をまわして、希望するトーン周波数にあわせませう。



トーン周波数表 (Hz)							
67.0	79.7	94.8	110.9	131.8	156.7	186.2	225.7
69.3	82.5	97.4	114.8	136.5	162.2	192.8	233.6
71.9	85.4	100.0	118.8	141.3	167.9	203.6	241.8
74.4	88.5	103.5	123.0	146.2	173.8	210.7	260.3
77.0	91.5	107.2	127.3	151.4	179.9	218.1	—

2. 再度 キーを押すと、トーン周波数の選択操作は完了します。

アドバイス トーン周波数はVFO AとVFO Bに、それぞれ異なるトーン周波数を個別に設定することができます。

●トーンサーチ機能

FTT-10/ A16SまたはFTT-10/ A16Dのみ対応

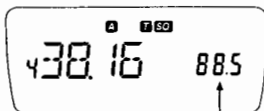
相手局のトーン周波数が不明な場合、トーンサーチ機能を動作させることにより、相手局のトーン周波数を捜すことができます。

1. 相手の信号を受信します。
2.  キーを押すたびに、ディスプレイの表示が、

T ➡ **T SQ** ➡ **DCS** ➡ 表示無し

と変わりますので、“**T SQ**”を表示させます。

3. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押します。
4.  キーを0.5秒以上押し続けると、トーンサーチ機能が動作します。



トーン周波数をサーチする

5. 相手局のトーン周波数と一致すると、トーンサーチ機能は一時的に停止し、トーン周波数がディスプレイに点滅します。
6. トーン周波数が点滅している間（約5秒間）に**PTTスイッチ**を押すと、トーンサーチ機能は解除され、相手局と交信（トーンスケルチ運用： 69ページ）することができます。

DCS運用

DCS運用とは、トーンスケルチ運用と同じように、ある特定の局や特定したグループだけを対象に“待ち受け/呼び出し操作”が行なえる運用方法です。

なお、DCS運用を行うためには、73ページの“DCSコードの選択操作”により、あらかじめ自局と相手局のDCSコードを同じコードに設定しておきます。

自局と相手局のDCSコードが同じでないと、DCS運用を行うことはできません。

また、DCS運用中に限り、「相手局と交信可能な状態か」を自動的に調べ、ディスプレイに「交信可能圏内（*RANG*の表示）」または「交信可能圏外（*RANG*が点滅）」を表示する機能（ARTS：Auto Range Transponding System機能）を動作させることができます。

（☞ 75ページ）

1. キーボードの  キーを押すと、運用状態が  キーを押すたびに下記のように変化しますので、運用状態をDCS運用に設定して交信を行います。

トーンエンコーダー運用（☞ 69ページ）



トーンスケルチ運用（☞ 69ページ）



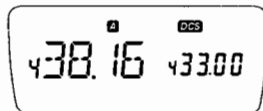
DCS運用



トーンエンコーダー運用/トーンスケルチ運用/
DCS運用解除

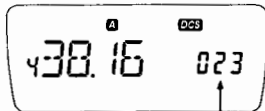
ディスプレイに“**DCS**”の表示が点灯し、送信時に音声信号とともに73ページに記した“DCSコードの選択操作”で設定したDCSコードを送信し、相手局のDCS回路のスケルチを開けて相手局を呼び出すことができます（呼び出し操作）。また、受信時には、設定したDCSコードと同じDCSコードを伴った信号を受信したときのみDCS回路のスケルチが開き、相手局の信号を受信することができます（待ち受け操作）。なお、DCSコードの異なる信号やDCSコードを含まない信号では、DCS回路が開かず受信することができませんが、BUSY/TXインジケーターが緑色に点灯し、Sメーターが点滅して信号が入感していることを知らせます。

また、このときにMONI（T.CALL/MONI選択操作でT.CALLに設定している場合を除く）スイッチを押せば、その信号を押している間だけ受信することができます。



●DCSコードの選択操作

1. DCS運用の際キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在設定してあるDCSコードを表示しますので、**DIAL ツマミ**をまわして、希望するDCSコードにあわせ



現在設定してあるDCSコード

DCSコード															
023	051	114	143	174	245	266	332	411	452	506	612	703			
025	053	115	145	205	246	271	343	412	454	516	624	712			
026	054	116	152	212	251	274	346	413	455	523	627	723			
031	065	122	156	223	252	306	351	423	462	526	631	731			
032	071	125	156	225	255	311	356	431	464	532	632	732			
036	072	131	162	226	261	315	364	432	465	546	654	734			
043	073	132	165	243	263	325	365	445	466	565	662	743			
047	074	134	172	244	265	331	371	446	503	606	664	754			

2. 再度  キーを押すと、DCSコードの選択操作は完了します。

アドバイス DCSコードはVFO AとVFO Bに、それぞれ異なるDCSコードを個別に設定することができます。

●DCSサーチ機能

相手局のDCSコードが不明な場合、DCSサーチ機能を動作させることにより、相手局のDCSコードを捜すことができます。

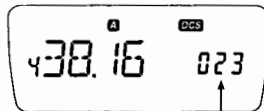
1. 相手の信号を受信します。
2.  キーを押すたびに、ディスプレイの表示が、

T → **T SQ** → **DCS** → 表示無し

と変わりますので、“**DCS**”を表示させます。

3. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押します。

4.  キーを0.5秒以上押し続けると、DCSサーチ機能が動作します。



DCSコードをサーチする

5. 相手局のDCSコードと一致すると、DCSサーチ機能は一時的に停止し、DCSコードがディスプレイに点滅します。
6. DCSコードが点滅している間（約5秒間）に**PTTスイッチ**を押すと、DCSサーチ機能は解除され、相手局と交信（DCS運用：72ページ）することができます。

ベル機能

ベル機能とは、トーンスケルチ運用および、DCS運用時に特定局からの呼び出しを、“呼び出し音”と“ディスプレイの表示”で知らせる運用方法のことです。

なお、ベル運用を行うためには下記の操作を行ってください。

111ページを参考にして、ベル機能を“ON”にします

トーンスケルチ運用時にベル機能を動作させる場合



キーで、トーンスケルチ運用にあわせませす

相手局と同じトーン周波数にあわせませす

DCS運用時にベル機能を動作させる場合



キーでDCS運用にあわせませす

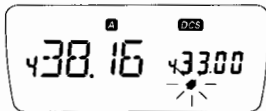
相手局と同じDCSコードにあわせませす

ベル機能動作



自局と相手局のトーン周波数（トーンスケルチ時）または、DCSコード（DCS運用時）が同じでないと、ベル機能は動作しません。

ベル機能が動作すると、ディスプレイに“●”の表示が点灯し、設定したトーン周波数（またはDCSコード）と同じトーン周波数（またはDCSコード）を受信したときのみ、呼び出し音と同時に“●”の表示が点灯から点滅に変わり、呼び出しがあったことを知らせます。



アドバイス 呼び出しを受けた時の“●”表示の点滅は、応答するまで点滅を続けます。

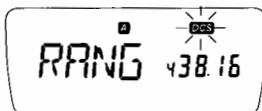
呼び出された後に相手局と交信を始めると、ベル機能は一時的に解除されます。

再び  キーを押すことにより、ベル機能を再開させることができます。

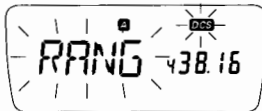
ARTS機能（交信可能圏内チェック機能）

ARTS機能（Auto Range Transponding System）を搭載したトランシーバー同士で運用を行っている場合、お互いに交信可能な状態であるか（距離が離れすぎていないか、障害物などで遮られていないか）どうかを自動的に調べ、（確認する信号を定期的に出す）交信可能圏内・圏外の表示を行います。

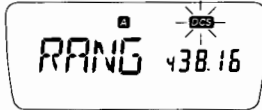
交信可能圏内であれば、「ビビッ！」という音と共にディスプレイに“RANG”が表示します。



交信可能圏外になると、「ビビビッ！」という音と共に“RANG”の表示が点滅に変わります。



再び通信圏内に戻ると、「ビビッ！」という音と共に“RANG”の表示は点滅から点灯に戻ります。



アドバイス

交信可能圏内にいるときに確認信号を受信すると“ピッ!”という音が出ますが、119ページの操作を行うことにより、この音をON/OFFすることができます。



◎107ページの“ビープ音のON/OFF”の設定を“OFF”にしている場合は、ARTS機能動作時のすべての確認音は鳴らなくなります。

◎ARTS機能を動作させるとき、および動作中は、他局の通信に妨害を与えないよう、十分ご注意ください。

◎ARTS機能を使用中に生じた事故等に関して、当社は責任を負いかねますのでご了承ください。

●ARTS機能の設定操作

ARTS機能を動作させるには、ARTSモードの設定を行わなければ動作しません。

1.  キーを押すたびに、ディスプレイの表示が

T → **T SQ** → **DCS** → 表示無し

と変わりますので、“**DCS**”を表示させます。

2. キーボードの  キーを押した後に、続けて

 キーを押します。

3. DIALツマミをまわすとDCSコードが変化しますので、希望のDCSコードにあわせます。

( 73ページ)



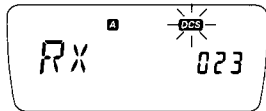
お互いに同じDCSコードに設定しないと、ARTS機能は動作しません。

4.  キーを押すとARTS機能の動作が、

RXモード

相手からの確認信号を受信し、交信可能圏内外の表示を行います。

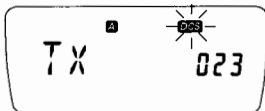
相手に確認信号を送信しませんので、相手のトランシーバーには交信可能圏内外の表示は出ません。



TXモード

確認信号を送出するだけのモードです。

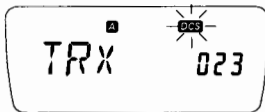
確認信号の受信は行いませんので、交信可能圏内外の表示は行いません。



TRXモード

確認信号の送信および受信を行います。

相手に確認信号を送信すると共に、相手からの確認信号を受信しますので、交信可能圏内外の表示を行います。



と変化しますので、希望の動作状態にあわせます。

アドバイス RX / TX / TRX のモードに設定すると、ディスプレイの “ DCS ” 表示が点滅します。

5. キーを押して、ARTS機能の設定は終了です。

●ARTS機能を動作させる



◎ARTS機能が動作中は、運用周波数の変更操作を行うことはできません。

◎PTTロックが“ON”になっているときおよび、デュアルレシーブ機能が動作しているときは、ARTS機能は動作しません。(PTTロックの解除 27ページ)
(デュアルレシーブ機能の解除 65ページ)

アドバイス ◎左記の設定後、続けてARTS機能を動作させる場合は、キーボードの キーを押した後に、続けてDIALツマミを0.5秒以上押すと、左記で設定したモード (RX / TX / TRX のいずれか) をディスプレイに表示して、ARTS機能が動作します。

◎CWID機能 (120ページ) が動作している場合は、確認信号を16回出す毎にCWIDに登録された文字をモールス音で送出します。ただし、このときにはDCSコードを送出しませんので、当人同士はこのCWIDは聞くことができません。(CWID機能を動作させるには、第三級アマチュア無線技士以上の資格を持ち、F2の電波型式が免許されていなければなりません)

1. キーを押すたびに、ディスプレイの表示が
T ➡ T SO ➡ DCS ➡ 表示無し

と変わりますので、“DCS”を表示させます。



この時“DCS”が点滅しない場合は、前記の“ARTS機能の設定操作”を行ってください。

2. “DCS”が点滅していることを確認後、キーボードの  キーを押し、続けてDIALツマミを0.5秒以上押し続けると、設定したモード（RX / TX / TRXのいずれか）をディスプレイに表示して、ARTS機能が動作します。

●ARTS機能を終了させる

ARTS機能を終了させる場合は、

☆電源を切る

☆キーボードの  キーを押した後に、続けてDIALツマミを0.5秒以上押す

のいずれかの操作で、ARTS機能の動作を終了させることができます。

ページャー運用

（FTT-10/ A16SまたはFTT-10/ A16Dのみ対応）

ページャー運用とは、トーンスケルチ運用やDCS運用と同じように、ある特定の局や特定したグループだけを対象に“待ち受け/呼び出し操作”が行なえる運用方法です。

ただし、ページャー運用はトーンスケルチ運用やDCS運用に比べ、“ページャー呼び出し”や“コードスケルチ呼び出し”等の機能が追加されていますので、より高度な“待ち受け/呼び出し操作”が行なえるようになります。

● ページャーコードの設定

ページャーコードとは、ページャー運用を行なうために使用する制御コードのことで、“000”から“999”までの3桁の数字で表わされるDTMF信号の組み合わせにより構成されており、トーンスケルチ運用時のトーン

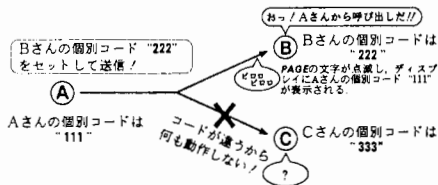
ン信号や、DCS運用時のDCSコードと同じ役目を持っています。なお、このページャーコードには、個別コードとグループコードの2種類があり、次に示すような運用上の違いがあります。

◎ 個別コード

個別コードとは、各局がそれぞれ個別に持っているその局専用のページャーコードのことで、このページャー（個別）コードを使用して呼び出し操作を行うと、その局だけを指定して呼び出すことができます（個別呼び出し操作）。



● AさんがBさんだけを呼び出したい時！

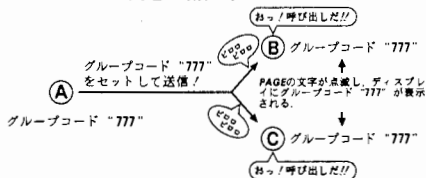


◎ グループコード

グループコードとは、いくつかの局が集まって1つのグループとして運用しているときに、そのグループ全員に共通したページャーコードのことで、このグループコードを使用して呼び出し操作を行うと、そのグループに属している全ての局を一斉に呼び出すことができます（グループ呼び出し操作）。



● AさんがBさん、Cさんの2人を一緒に呼び出したい時！



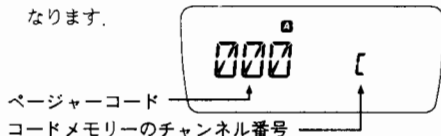
また、このページャーコードには、10チャンネルの専用メモリーチャンネル“コードメモリー”があり、そのコードメモリーにあらかじめ取り決めたページャーコードをメモリーしておくことにより、能率良くページャー運用を行なうことができます。



コードメモリー番号	用 途	着呼禁止機能のON/OFF
[	相手局の個別コード用（受信専用）	切り換え不可（常時OFF）
P	自局の個別コード用（自分のコードを設定する）	コードセット後は切り換え不可
1	呼び出したい相手局の個別コードなど	切り換え可
2	自局が属しているグループのグループコードなど	切り換え可
3	自局が属しているグループのグループコードなど	切り換え可
4	その他のグループのグループコードなど	切り換え可
5	その他のグループのグループコードなど	切り換え可
6	その他のグループのグループコードなど	切り換え可
7	その他のグループのグループコードなど	切り換え可
8	その他のグループのグループコードなど	切り換え可

自局用の個別コードとグループコードが設定してあるコードメモリー以外のコードメモリー“2”～“8”には、そのページャーコードを受信しても呼び出されないよう着呼禁止機能（☎ 88ページ）を動作させておきます。

1. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ページャーコードの設定モードになります。



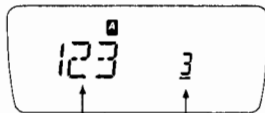
2. この状態でDIALツマミをまわすと、コードメモリーのチャンネル番号が変化しますので、設定しようとするコードメモリーのチャンネル番号にあわせませう。



コードメモリー“[”には、ページャーコードの設定はできません。

3. ここで、キーボードの数字キーで希望するページャーコード（3桁）を入力します。

希望のページャーコードを入力する
ページャーコードの入力と同時に
“_”が表示します。



（詳細は88ページ「着呼禁止機能」参照）

4. 上記2.と3.の操作を繰り返し、他のコードメモリーにもページャーコードを設定して行きます。
 5. ページャーコードの設定が終わりましたら、PTTスイッチを押します。
- ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、ページャーコードの設定操作は完了します。

●待ち受け操作

不要な通信を排除し、ある特定の局や、特定したグループからの呼び出しを受けたときにのみ、相手局からの信号を受信することができる操作です。

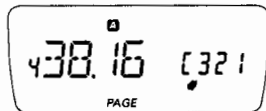
なお、待ち受け操作には、特定局からの呼び出しを電子音で知ることのできる“ページャー動作”または“トリガー・ページャー動作”と、特定局からの呼び出しを受けたときにそのまま交信状態に移ることのできる“コードスケルチ動作”の3種類の待ち受け方法がありますので、下記の操作を参考に、いずれか希望する待ち受け方法に設定します。

キーボードの  キーを押した後、 キーを押すたびに、待ち受け方法がつぎのように切り換わりますので、希望する待ち受け方法に設定します。

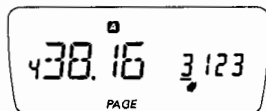
◎ページャー動作

★ディスプレイに“PAGE”  の表示が点灯し、あらかじめコードメモリーにメモリーしてあるページャーコードのいずれかと同じ組み合わせのページャーコードの信号を受信したときにのみ“PAGE”表示が点灯から点滅に変わり、“”が消灯して呼び出し音が鳴り、ディスプレイに次のいずれかを表示し、“どの局から呼び出しを受けたのか？”を知ることができます。

●個別呼び出しで呼び出しを受けたときには、呼び出してきた局の個別コードを表示



●グループ呼び出しで呼び出しを受けたときには、そのときに使用したグループコードを表示



なお、呼び出されたときに送信操作を行なうと、相手局の個別コードと自局の個別コードを送信の初めに自動送出し、応答することができます。また、応答後相手局と交信する場合には、ページャー運用を解除してから行なってください。

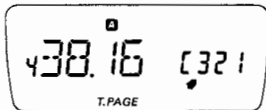
◎トリガー・ページャー運用

(トリガー・ページャー搭載機同士のみ有効)

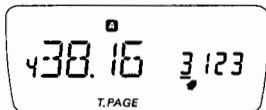
一度相手局と交信状態になると、ページャーコードを送出しなくなりますので、静かな交信を行なうことができます。

★ディスプレイに“T.PAGE” “●”の表示が点灯し、あらかじめコードメモリーにメモリーしてあるページャーコードのいずれかと同じ組み合わせのページャーコードの信号を受信したときのみ“T.PAGE”の表示が点灯から点滅に変わり、“●”が消灯して呼び出し音が鳴り、ディスプレイに次のいずれかを表示し、“どの局から呼び出しを受けたのか?”を知ることができます。

●個別呼び出しで呼び出しを受けたときには、呼び出してきた局の個別コードを表示



●グループ呼び出しで呼び出しを受けたときには、そのときに使用したグループコードを表示



なお、呼び出されたときに直ちに(3秒以内)送信操作を行なうと、相手局の個別(またはグループ)コードと自局の個別コードを送信の初めに自動送出して、そのまま相手局と交信することができます。

◎コードスケルチ動作

★ディスプレイ内に“CODE”の表示が点灯し、現在ディスプレイに表示してあるコードメモリーにメモリーしてあるページャーコードと同じ組み合わせのページャーコードを受信した場合にのみ、相手局の信号を受信することができます。

なお、呼び出されたときに送信操作を行なうと、本機もディスプレイに表示してあるコードメモリーにメモリーしてあるページャーコードを送信の初めに自動送出し、応答することができます。

◎ページャー動作/トリガー・ページャー動作/

コードスケルチ動作解除

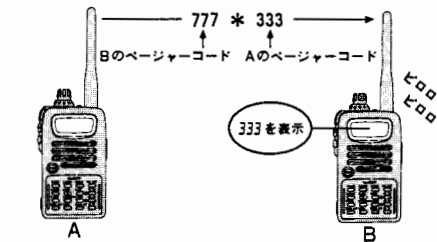
★各ページャー動作は解除され、通常の運用状態に戻ります。

アドバイス

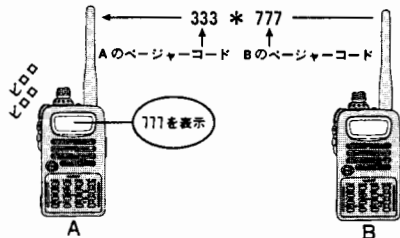
ページャー動作時またはトリガー・ページャー動作時に、呼び出しを受けたときに鳴る呼び出し音は、123ページの“ページャー呼び出し音の回数設定”を行なうことにより、呼び出し音の鳴る回数を変更することができます。

● ページャー自動応答機能

この機能は、ページャー運用時に呼び出された時、自動的に相手と自分のページャーコードを送信し、応答する機能です。



“B” は “A” から呼び出しを受けると



“B” は自動的に “A” に応答する

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を、“PAGE -26-” にあわせます。

PAGE -26-

3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして “ASK” にあわせます。

ASK

5. DIALツマミを押します。
6. DIALツマミをまわすと、
“ASK on” (自動応答を行います)
↓
“ASK off” (自動応答は行いません)
↓
“ASK on” (自動応答を行います)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。
(工場出荷時は “ASK off” に設定してあります)

7. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押して操作は終了です。

アドバイス 設定を中止したい時は、PTTスイッチを押してください。

◎ページャー自動応答機能の付属機能

○アンサーメッセージのON/OFF設定(126ページ)を“ON”にすると、自動応答を行った後にREC2(REC2の設定をしていない場合はREC)に録音された音声を自動的に送信し、相手に“声のメッセージ”を送ることができます。

○CWID機能(120ページ)が動作している場合は、自動応答を行った際にCWIDに登録された文字をモールス音で送出します。(CWID機能を動作させるには、第三級アマチュア無線技士以上の資格を持ち、F2の電波型式が免許されていなければなりません)

●呼び出し操作

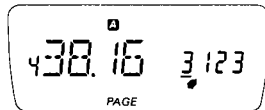
ページャー運用で待ち受けしている局を呼び出す操作です。

◎ページャー呼び出し

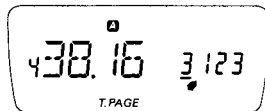
ページャー動作で待ち受けしている局を呼び出す操作です。

1. キーボードの  キーに続けて  キーを押して、ページャー動作※1 またはトリガー・ページャー動作※2 に設定します。

※1：相手局が、当社のFT-705やFT-805などのトランシーバーや他社のトランシーバーを使ってページャー待ち受けを行っているとき、(ディスプレイに“PAGE”と“●”の表示が点灯します)



※2：相手局が、同じFT-10/40や当社のFT-51などを使ってトリガー・ページャー動作で待ち受けを行っているとき、(ディスプレイに“T.PAGE”と“●”の表示が点灯します。)



2.  キーを押した後に  キーを押すとコードメモリーの選択を行えますので、DIALツマミをまわして、

◎個別呼び出しで呼び出すときには相手局の個別コード

◎グループ呼び出しで呼び出すときには相手局が属しているグループのグループコード

がメモリーしてあるコードメモリーにあわせ、PTTスイッチを押して準備は終了です。

アドバイス コードメモリーは下記に示す方法でも選択することができます。

1. キーボードの  キーを押します。
 2. DIALツマミを押すたびにコードメモリーが変化しますので、希望のコードメモリーにあわせませう。
 3. PTTスイッチを押して操作は終了です。
3. この状態で送信すると、上記2.の項で設定した相手局の個別（またはグループ）コードと自局の個別コードを送信の初めに連続して自動送出し、ページャー動作で待ち受けしている局を呼び出すことができます。



呼び出したい局のページャーコードがコードメモリーに設定してないときには、次

ページに記した“マニュアル操作による呼び出し方法”により行ないます。

アドバイス トリガー・ページャー動作でページャー呼び出しを行った場合には、そのまま相手局と交信することができます。

◎コードスケルチ呼び出し

コードスケルチ動作で待ち受けしている局を呼び出す操作です。

1. キーボードの  キーを押します。
2.  キーを押すたびに、ディスプレイの表示が

PAGE ➡ T.PAGE ➡ CODE ➡ 表示なし ➡ PAGE

と変わりますので、“CODE”を表示させ、PTTスイッチを押します。

3.  キーを押した後に  キーを押すとページャーコードを選択できますので、DIALツマミをまわして、希望のコードメモリーチャンネルを呼び出し、最後にPTTスイッチを押します。
4. この状態で送信すると、上記3.の項で設定した個別（またはグループ）コードを送信の初めに自動送出し、コードスケルチ動作で待ち受けをしている局を呼び出すことができます。



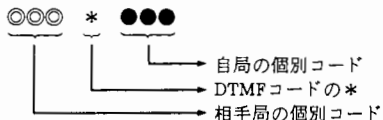
呼び出したい局のページャーコードがコードメモリーに設定してないときには、下記の“マニュアル操作による呼び出し方法”により行います。

マニュアル操作による呼び出し方法

呼び出したい局のページャーコードがコードメモリーに設定してないときには、本機のDTMF内蔵キーボードより直接DTMFコードを送出する、マニュアル操作で呼び出しを行います。

ページャー運用時に、本機が送信の初めに自動送出するページャーコードは、

●ページャー動作時には



このページャーコードの組み合わせは、本機のDTMFメモリーにメモリーして運用することもできます。

●コードスケルチ動作時には

○○○○ → 相手局のコードメモリーにメモリーされているページャーコード



の順で送りますので、本機のDTMF内蔵キーボードより、上記の順番でDTMFコードを送出すれば、相手局を呼び出すことができます。

自局の個別コードが“5 6 7”で、個別コード“1 2 3”の相手局を呼び出す場合

PTTスイッチを押しながら本機のDTMF内蔵キーボードより、



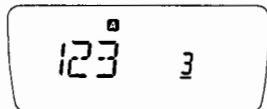
とキー操作します。

着呼禁止機能

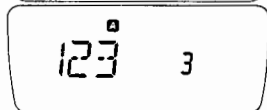
着呼禁止機能とは、ページャー動作で特定局からの呼び出しを待っているときに、その局が使用するページャーコード以外のページャーコードでは、呼び出しを受けなくするための機能です。

本機では、ページャー動作時に呼び出し操作を受けると、相手局の発するページャーコードが自局のコードメモリーに設定してあるページャーコードのいずれかと一致すれば、自動的に相手局の信号を受信するため、相手を呼び出すときにのみ使用するページャーコードや、以前に使用したページャーコードなどがコードメモリーに設定してあれば、そのページャーコードで呼び出しを受けても受信してしまいます。そこで、このようなことが起こらないよう、それらのコードメモリーには、下記の方法で着呼禁止機能を動作させます。

1. まず初めに、キーボードの  キーと  キーを続けて順に押してページャーコードの設定モードにします。
2. つぎに、DIALツマミを操作するとコードメモリーが順番に切り換わりますので、着呼禁止機能を動作させたいページャーコードが設定してあるコードメモリーにあわせます。



3. この状態で再度  キーを押すと、コードメモリーのチャンネル番号表示の下にある “_” 表示が消灯して、着呼禁止機能が動作します。



アドバイス  キーを押すたびに、“_” の表示が消灯、点灯を繰り返し、着呼禁止機能が動作 ➡ 解除 ➡ 動作・・・を繰り返します。

4. PTTスイッチを押して着呼禁止機能の設定は終了です。



◎着呼禁止機能が動作しているコードメモリーのページャーコードでは、ページャー動作時には呼び出し操作を受けても相手局の信号は受信できません。

◎コードスケルチ動作時には、着呼禁止機能の動作・解除にかかわらず、ページャーコードが一致すれば相手局の信号を受信することができます。

DTMF機能 (FTT-10/ A06は未対応)

DTMF信号とは、『Dual Tone Multi Frequency』の頭文字から取った略語で、電話をかけるときに聞こえる“ピッ・ポッ・パッ”音のことをいいます。

なお、このDTMF信号は下表に示すように、2つの周波数の組み合わせから成っており、ページャー運用の制御などに使用することができます。

	1209Hz	1336Hz	1477Hz	1633Hz
697Hz	(1)	(2)	(3)	(A)
770Hz	(4)	(5)	(6)	(B)
852Hz	(7)	(8)	(9)	(C)
941Hz	(*)	(0)	(#)	(D)

PTTスイッチを押しながら、上表を参考にして希望のキーボードを押すことにより、DTMF信号を送出することができます。

●DTMFモード

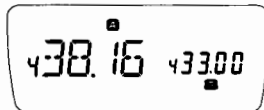
(FTT-10/ A16SまたはFTT-10/ A16Dのみ対応)

本機には、ページャーコードや電話番号などのDTMFコードを最大15桁までメモリーすることのできる、10チャンネル(チャンネル番号“0”～“9”)のDTMFメモリーチャンネルがあります。

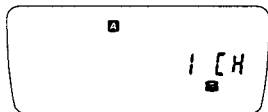
●DTMFメモリーセット

DTMFメモリーチャンネルにDTMFコードをメモリーするための操作です。

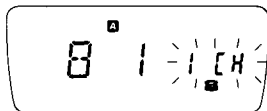
1. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイに“ ”の表示が点灯してDTMFモードになります。



2. 再度  キーを0.5秒以上押し続けると、ディスプレイに点滅するメモリーチャンネル番号(この番号はDTMFメモリーチャンネルの番号ではありません)が現れますので、メモリーしたいDTMFメモリーチャンネルのチャンネル番号をキーボードの数字キーで入力します。



3.  キーを0.5 秒以上押し続けると、ディスプレイの“* [H]”表示が点灯から点滅に変わりますので、メモリーしたいDTMFコードをキーボードより順番に入力して行きます。



 途中で入れ間違えたときには、PTTスイッチをワンタッチで押すと上記2.の操作を終了した状態に戻りますので、再度3.の操作を繰り返します。

4. DTMFコードの入力が終わりましたら最後にDIALツマミを押します。ディスプレイの“* [H]”表示が点滅から点灯に変わり、メモリー完了です。

 DTMFコードを15桁全部に入力すると、DIALツマミを押さなくても自動的にメモリー完了になります。

アドバイス ◎この状態でDIALツマミをまわすと、メモリーしたDTMFコードを順番に表示しますので、

正しくメモリーされているかを確認することができます。

- ◎メモリーしたチャンネルの番号をキーボードの数字キーで入力すると、実際にDTMFコードをスピーカーで鳴らすことができます。

- ◎4.の操作が終了後、 キーを押した後にDIALツマミをまわすか、 ~  のキーを押すと、他のDTMFメモリーチャンネルを呼び出すことができますので、上記3.と4.の操作を繰り返すことにより、他のDTMFメモリーチャンネルにもDTMFコードをメモリーすることができます。

5. もう一度DIALツマミを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、DTMFメモリーセット操作は終了します。

●DTMFメモリーの呼び出し

DTMFモード時（ディスプレイに“■”の表示が点灯しているとき）の送信中にキーボードの数字キーでDTMFメモリーチャンネルのチャンネル番号を押すと、そのDTMFメモリーチャンネルにメモリーされているDTMFコードが送出されます。

アドバイス DTMFコードが送出されているときは、PTTスイッチを離しても、送信状態は保持されます。

●DTMFモードの解除

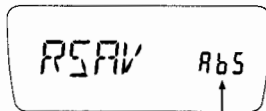
キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイの“■”表示が消灯し、DTMFモードは解除されます。

バッテリーセーブ運用

バッテリーセーブ運用とは、受信時において信号の入感がないときに、CPU以外への電源供給を断続的にを行い、電池の消耗を少なくする運用方法です。なお、電源の供給/休止比率（バッテリーセーブレシオ）はバッテリーセーブ“OFF”を含めて12種類あり、その中から1つを選んで設定することができます。

アドバイス FTT-10/A06の場合は108ページの方法でバッテリーセーブ運用の設定を行ってください。

1. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在設定してあるバッテリーセーブレシオを表示します。



現在のバッテリーセーブレシオ

2. この状態でDIALツマミを操作すると、バッテリーセーブレシオが

◎ ABS (Automatic Battery Save)

（信号の入感状況により、バッテリーセーブレシオが“1:1”から“1:10”の間を変化します）

- ◎ 1:1（電源供給 50mS：休止 50mS）
- ◎ 1:2（電源供給 50mS：休止 100mS）
- ◎ 1:3（電源供給 50mS：休止 150mS）
- ◎ 1:4（電源供給 50mS：休止 200mS）
- ◎ 1:5（電源供給 50mS：休止 250mS）
- ◎ 1:6（電源供給 50mS：休止 300mS）
- ◎ 1:7（電源供給 50mS：休止 350mS）
- ◎ 1:8（電源供給 50mS：休止 400mS）
- ◎ 1:9（電源供給 50mS：休止 450mS）
- ◎ 1:10（電源供給 50mS：休止 500mS）
- ◎ OFF（常時電源を供給します）

と変化しますので、希望する値に設定します。

3. 設定終了後、再度  キーを押すと、ディスプレイの表示が運用周波数表示に戻り、バッテリーセーブ運用が始まります。
4. バッテリーセーブ運用中は、ディスプレイに“SAVE”の表示が点滅します。
5. バッテリーセーブ運用中に信号が入感すると、バッテリーセーブ運用は一時休止してその信号を受信

し、信号が無くなると約2秒後に、再びバッテリーセーブ運用を再開します。



◎バッテリーセーブ運用が一時休止しているときには、ディスプレイの“SAVE”は点滅から点灯に変わります。

◎信号が入感していなくても、スケルチが開いてノイズが聞こえているときや送信中、スキャン操作中でも、バッテリーセーブ機能は一時休止します。

◎本機をバケット通信などのデータ通信に使用するときには、バッテリーセーブレシオを“OFF”にして運用してください。

バッテリーセーブ運用中では、バケット信号が入感してもバッテリーセーブ機能が一時停止するまでに時間が掛かり、いわゆる“頭切れ”の現象が生じるからです。

ビープ機能

本機のキーボードは、キー操作を行うとビープ音を発します（FTT-10/A16SまたはFTT-10/A16Dは“ドレミ”の音）ので、音によるキー操作の確認が行えます。また、各種機能の動作・停止時にもビープ音を発します。

なお、このビープ音は下記の操作を行うことにより、“ON/OFF”することができます。

アドバイス FTT-10/A06の場合は107ページの方法でビープ音のON/OFFを行ってください。

1. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在表示されている状態が点灯します。

BEEP on

2. この状態でDIALツマミをまわすと、

BEEP on ➡ BEEP off ➡ BEEP on

の動作を繰り返します。希望の状態にあわせてください。

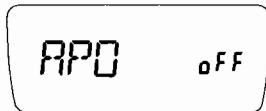
3. 設定終了後、再度  キーを押すと、ディスプレイの表示は運用周波数表示に戻り、ビープ音の“ON/OFF”操作は終了します。

オートマチックパワーオフ (APO) 機能

オートマチックパワーオフ機能とは、受信時において、あらかじめ決められた時間（パワーオフタイム）までに送信操作やDIAL操作・キーボード操作を行わなかったときには、CPU以外への電源供給を停止し、電池の消耗を少なくする機能です。なお、パワーオフタイムは“30分、1時間、8時間、OFF（オートマチックパワーオフ機能“OFF”）”の4種類があり、その中から1つを選んで設定することができます。（工場出荷時には、パワーオフタイムは“OFF”に設定してあります。）

アドバイス FTT-10/A06の場合は109ページの方法でオートパワーオフの時間設定を行ってください。

1. キーボードの  キーと  キーを続けて順に押すと、ディスプレイに現在設定してある状態を表示します。



2. この状態でDIALツマミを操作すると、パワーオフタイムが

0.5H (30分) ➡ 1H (1時間) ➡ 8H (8時間) ➡ OFF

と切り換わりますので、希望する時間に設定します。

3. 設定終了後、再度  キーを押すと、ディスプレイの表示がセットモードにする前の表示に戻り、オートマチックパワーオフ機能の設定操作は完了します。



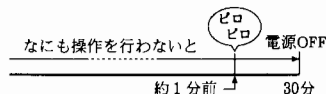
パワーオフタイムを30分、1時間、8時間のいずれかに設定すると、ディスプレイに“”の表示が点灯します。

アドバイス ◎2.の項で設定した時間まで、送信操作やDIAL操作・キーボード操作を行わないと、自動的に電源が“OFF”になります。

（自動的に電源が“OFF”になる約1分前に、警告音が鳴ります）



パワーオフタイムを“30分”に設定した場合



◎オートマチックパワーオフ機能で電源が“OFF”になった場合でも、再度PWRスイッチを押せば、電源を入れることができます。

FTT-10/ A16Sのキーボード動作説明

	1 PAGE 	2 CODE 	3 DTMF 	LW LCK 
単独で押すと	数字キーの 1	数字キーの 2	数字キーの 3	LOWパワー・HIGHパワーの切り換え
 キーを押した後に 続けて押すと	PAGE → T.PAGE → CODE	PAGEコードの設定	DTMFモードのON/OFF	キーロックのON/OFF
送信中に押すと	DTMF信号の "1"	DTMF信号の "2"	DTMF信号の "3"	DTMF信号の "A"
	4 SAVE 	5 APO 	6 RPT 	TN T.S 
単独で押すと	数字キーの 4	数字キーの 5	数字キーの 6	T → T SQ → OCS
0.5秒以上押すと	設定無し	設定無し	設定無し	録音機能動作
 キーを押した後に 続けて押す	バッテリーセーブ機能設定	オートパワーオフ機能設定	シフト方向の設定	・トーン周波数設定 (TまたはT SQが指示時) ・DCSコード設定 (DCS指示時のみ)
0.5秒以上押す	設定無し	設定無し	設定無し	自動録音機能動作
送信中に押すと	DTMF信号の "4"	DTMF信号の "5"	DTMF信号の "6"	DTMF信号の "B"
	7 STEP 	8 TX SAVE 	9 BEEP 	HM RV 
単独で押すと	数字キーの 7	数字キーの 8	数字キーの 9	ホームチャンネルに移行 (REVに設定時はリバース運用)
0.5秒以上押すと	設定無し	設定無し	設定無し	REC 1の内容を再生
 キーを押した後に 続けて押す	周波数ステップの設定	送信セーブ機能の設定	ビーブ音のON/OFF	リバース運用に移行 (REVに 設定時はホームチャンネルに移行)
0.5秒以上押す	設定無し	設定無し	設定無し	REC 2の内容を再生
送信中に押すと	DTMF信号の "7"	DTMF信号の "8"	DTMF信号の "9"	DTMF信号の "C"
	MR MW 	0 SQL 	VFO DW 	 W 
単独で押すと	・メモリーモードの呼び出し (VFOモード時) ・メモリーチューン動作 (メモリーモード時)	数字キーの 0	・VFOの呼び出し (メモリーモード時) ・VFO A/ VFO Bの切り換え (VFOモード時)	ファンクションキー
0.5秒以上押すと	メモリスキャン動作 (メモリーモード時)	設定無し	VFOスキャン動作 (VFOモード時)	メモリー書き込み時のチャ ンネル設定
 キーを押した後に 続けて押すと	メモリーチャンネルスキップ (メモリーモード時)	スケルチレベル調整	デュアルワッチ機能	ファンクション解除
送信中に押すと	DTMF信号の "*"	DTMF信号の "0"	DTMF信号の "#"	DTMF信号の "D"

FTT-10/ A16Dのキーボード動作説明

	1 PAGE 	2 CODE 	3 DTMF 	LW LCK 
単独で押すと	数字キーの 1	数字キーの 2	数字キーの 3	LOW/パワー・HIGH/パワーの切り換え
 W キーを押した後に続けて押すと	PAGE ⇨ T.PAGE ⇨ CODE	PAGEコードの設定	DTMFモードのON/OFF	キーロックのON/OFF
送信中に押すと	DTMF信号の "1"	DTMF信号の "2"	DTMF信号の "3"	DTMF信号の "A"
	4 SAVE 	5 APO 	6 RPT 	TN T.S 
単独で押すと	数字キーの 4	数字キーの 5	数字キーの 6	T ⇨ T SQ ⇨ DCS
 W キーを押した後に続けて押すと	バッテリーセーブ機能設定	オートパワーオフ機能設定	シフト方向の設定	・トーン周波数設定 (TまたはT SQが表示時) ・DCSコード設定 (DCS表示時のみ)
送信中に押すと	DTMF信号の "4"	DTMF信号の "5"	DTMF信号の "6"	DTMF信号の "B"
	7 STEP 	8 TX SAVE 	9 BEEP 	HM RV 
単独で押すと	数字キーの 7	数字キーの 8	数字キーの 9	ホームチャンネルに移行 (REVに設定時はリバース運用)
 W キーを押した後に続けて押すと	周波数ステップの設定	送信セーブ機能の設定	ビーブ音のDN/OFF	リバース運用に移行 (REVに設定時はホームチャンネルに移行)
送信中に押すと	DTMF信号の "7"	DTMF信号の "8"	DTMF信号の "9"	DTMF信号の "C"
	MR MW 	0 SQL 	VFO DW 	 W
単独で押すと	・メモリーモードの呼び出し (VFOモード時) ・メモリーチューン動作 (メモリーモード時)	数字キーの 0	・VFOの呼び出し (メモリーモード時) ・VFO A/ VFO Bの切り換え (VFOモード時)	ファンクションキー
0.5秒以上押すと	メモリスキャン動作 (メモリーモード時)	設定無し	VFOスキャン動作 (VFOモード時)	メモリー書き込み時のチャンネル設定
 W キーを押した後に続けて押すと	メモリーチャンネルスキップ (メモリーモード時)	スケルチレベル調整	デュアルワッチ機能	ファンクション解除
送信中に押すと	DTMF信号の "*"	DTMF信号の "0"	DTMF信号の "#"	DTMF信号の "D"

FTT-10/ A06のキーボード動作説明

	LW LCK 	TN T.S 	HM RV 
単独で押すと	LOWパワー、HIGHパワーの切り換え	T ⇄ DCS ⇄ OFF	ホームチャンネルに移行 (REVに設定の場合はリバース運用)
 W キーを押した後に 続けて押すと	キーロック	・ トーン周波数設定 (Tが表示時のみ) ・ DCSコード設定 (DCSが表示時のみ)	リバース運用に移行 (REVに 設定時はホームチャンネルに移行)
	MR MW 	VFO DW 	 W
単独で押すと	・ メモリーモードの呼び出し (VFOモード時) ・ メモリーチューン動作 (メモリーモード時)	・ VFOの呼び出し (メモリーモード時) ・ VFO A/ VFO Bの切り換え (VFOモード時)	ファンクションキー
 W キーを押した後に 続けて押すと	メモリーチャンネルスキップ (メモリーモード時)	デュアルワッチ機能	ファンクション解除

セットモード

セットモードとは、

一度設定してしまえばその後変更する機会の少ない機能や動作の選択・設定操作を行う状態のことをいい、アドレスナンバー“1”から“29”までの29種類（FTT-10/A06の場合は“1”から“26”までの26種類）の機能選択や機能設定を行うことができます。

（アドレスナンバーは、ディスプレイのメモリーチャンネル表示部に表示されます。）

●スケルチ回路の調整

(セットモード時のアドレスナンバー “01”)

工場出荷時はスケルチレベルは “8” に設定されていますが、下記の操作を行うことにより、スケルチレベルを設定することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を “SQL -01-” にあわせませう。

SQL -01-

3. DIALツマミを押します。
4. この状態でDIALツマミをまわすと、スケルチレベルが下記のように変化しますので、希望のレベルにあわせてください。

SQL 0 ➡ SQL 1 … SQL 14 ➡ SQL 15

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス 5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●送信出力の設定

(セットモード時のアドレスナンバー “02”)

本機は、送信出力をHI, L3, L2, L1 の4段階に切り換えることができますので、交信時の状況にあわせて、設定することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を “TXPO -02-” にあわせませう。

TXPO -02-

3. DIALツマミを押します。
4. この状態でDIALツマミをまわすと、送信出力が下記のように変化しますので、希望の出力にあわせてください。(工場出荷時は “HI” に設定してあります)

L3 ➡ L2 ➡ L1 ➡ HI

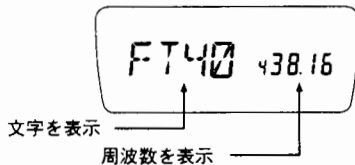
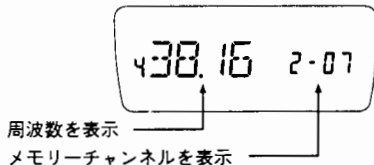
5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス 5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

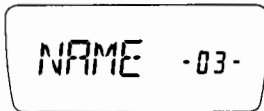
●メモリーに名前を付ける

(セットモード時のアドレスナンバー “03”)

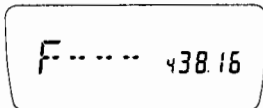
メモリーモードで運用の際、ディスプレイの表示をチャンネル番号ではなく、4文字のアルファベットや数字などで表示することができます。



1. 名前を付けたいメモリーを呼び出します。
2. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
3. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を “NAME-03-” にあわせませう。

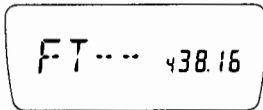


4. DIALツマミを押します。
5. DIALツマミをまわして “..... 00” にあわせませう。
6. DIALツマミを押すと、1桁目の文字を設定することができますので、DIALツマミをまわして、希望の文字を表示させませう。



アドバイス 表示させることのできる文字は、50ページに示す48文字です。

7. 再びDIALツマミを押すと、次の桁の文字を設定することができるようになりますので、DIALツマミをまわして、希望の文字を表示させませう。



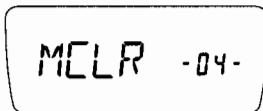
8. 7.の操作を繰り返して、最後の桁まで文字を表示させませう。
9. 最後にDIALツマミを押して、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

●メモリークリア操作

(セットモード時のアドレスナンバー "04")

メモリーチャンネルにメモリーした情報を一時的に消去することができます。

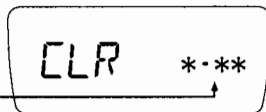
1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を "MCLR -04-" にあわせませす。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして、消去したいメモリーチャンネルにあわせませす。

アドバイス メモリーされているチャンネルは "SET *-*" , メモリーされていないチャンネルは "CLR *-*" がディスプレイに表示されます。

5. 再びDIALツマミを押します。
6. DIALツマミをまわして "CLR *-*" にあわせませす。



メモリーチャンネル
番号を表示

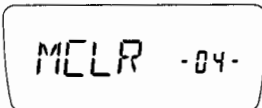
7. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

●メモリー復活操作

(セットモード時のアドレスナンバー "04")

メモリークリア操作で一時的に消去したメモリーを、再び復活させる操作です。

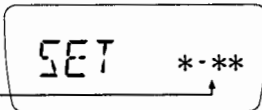
1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を "MCLR-04-" にあわせませす。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして、復活させたいメモリーチャンネルにあわせませす。

アドバイス メモリーされているチャンネルは "SET *-*"，メモリーされていないチャンネルは "CLR *-*" がディスプレイに表示されます。

5. 再びDIALツマミを押します。
6. DIALツマミをまわして "SET *-*" にあわせませす。



メモリーチャンネル
番号を表示

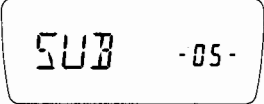
7. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

●サブ表示のON/ OFF

(セットモード時のアドレスナンバー “05”)

ディスプレイの右側には、メモリーチャンネル番号などの各種情報が表示されますが、この表示をON/OFFさせることができます。(メモリーモード時を除く)

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“SUB-05-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

SUB on ➡ SUB off

(表示する) (表示しない)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。
(工場出荷時は“on”に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス

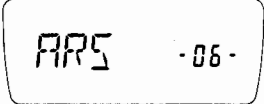
5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●ARS機能のON/ OFF (FT-40のみ対応)

(セットモード時のアドレスナンバー “06”)

受信周波数をレピーター局の出力(送信)周波数にあわせるだけですぐにレピーター運用を行うことができますが、この機能をON/OFFさせることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“ARS-06-”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

ARS on ➡ ARS off

(動作する) (動作しない)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。
(工場出荷時は“on”に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス

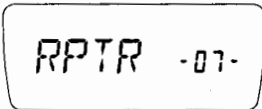
5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●シフト方向の設定

(セットモード時のアドレスナンバー "07")

受信周波数に対して送信周波数を、あらかじめ決めておいた周波数(シフト幅)だけ希望する方向にシフト(ずらす)させることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を "RPT R -07-" にあわせます。



3. 再びDIALツマミを押します。



セミデュプレックスがメモリーされたチャンネルで操作を行うと "JUP" が表示されます。

4. DIALツマミをまわすと、

-RPT ➡ +RPT ➡ SIMP

(マイナスシフト)(プラスシフト)(シンプレックス)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。
(工場出荷時は "SIMP" に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス

5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●シフト幅の設定操作

(セットモード時のアドレスナンバー “08”)

受信周波数に対して送信周波数をシフト（ずらす）させる際のシフト幅を設定します。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“SHIFT-08-”にあわせませう。

SHIFT -08-

3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、50kHz単位でシフト幅を0kHz～9.95MHzまで設定することができますので、希望のシフト幅にあわせませう。
(工場出荷時、FT-10は0MHz、FT-40は5MHzに設定してあります)
5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス 5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●周波数ステップの設定

(セットモード時のアドレスナンバー “09”)

周波数を変えるときステップ（間隔）を変更することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“STEP-09-”にあわせませう。

STEP -09-

3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、周波数ステップが、
FT-40 10kHz◆12.5kHz◆20kHz◆25kHz◆50kHz
FT-10 5kHz◆10kHz◆12.5kHz◆15kHz◆20kHz◆
◆25kHz◆50kHz
と変化しますので、希望のシフト幅にあわせませう。
(工場出荷時は20kHzに設定してあります)
5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス 5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

● スキャンレジュームの設定

(セットモード時のアドレスナンバー "10")

スキャンが一時停止した際の、スキャン再開の条件を設定することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を "RESM - 10-" にあわせませう。

RESM - 10-

3. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、
RESM 【Rrr (信号を受信している間は、一時停止を続けます)】
↓
RESM 5 (一時停止し、5秒後にスキャンを再開します)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせませう。
(工場出荷時は "RESM 5" に設定してあります)

4. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス 4.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

● ビープ音のON/ OFF

(セットモード時のアドレスナンバー "11")

各種警告音やキー操作時に発するビープ音をON/OFFすることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を "BEEP - 11-" にあわせませう。

BEEP - 11-

3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、
BEEP on (ビープ音が鳴る)
↓
BEEP off (ビープ音は鳴らない)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせませう。
(工場出荷時は "BEEP on" に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

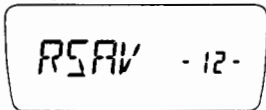
アドバイス 5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

● バッテリーセーブ設定

(セットモード時のアドレスナンバー “12”)

信号の入感がないときに、電池の消耗を少なくする機能です。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を “RSRV - 12-” にあわせませう。



3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、バッテリーセーブの状態が、

◎ ABS (Automatic Battery Save : 信号の入感状況により、バッテリーセーブレシオが “1:1” から “1:10” の間を変化します)



◎ 1:1 (電源供給 50mS : 休止 50mS)



◎ 1:2 (電源供給 50mS : 休止 100mS)



◎ 1:3 (電源供給 50mS : 休止 150mS)



◎ 1:4 (電源供給 50mS : 休止 200mS)



◎ 1:5 (電源供給 50mS : 休止 250mS)



◎ 1:6 (電源供給 50mS : 休止 300mS)



◎ 1:7 (電源供給 50mS : 休止 350mS)



◎ 1:8 (電源供給 50mS : 休止 400mS)



◎ 1:9 (電源供給 50mS : 休止 450mS)



◎ 1:10 (電源供給 50mS : 休止 500mS)



◎ OFF (常時電源を供給します)

と変化しますので、希望の状態にあわせませう。

(工場出荷時は “Ab 5” に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

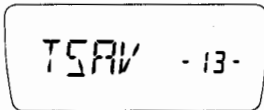
アドバイス 5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●TX SAVE機能のON/ OFF

(セットモード時のアドレスナンバー "13")

相手の信号がフルスケールで入感しているとき、自動的に送信出力を下げ、電池の消耗を少なくする機能です。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を "TSRV - 13-" にあわせませう。



3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

TSRV on ➡ TSRV OFF

と繰り返しますので、希望の状態にあわせませう。
(工場出荷時は "TSRV OFF" に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押して、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

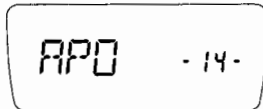
アドバイス 5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●オートマチックパワーオフ機能の時間設定

(セットモード時のアドレスナンバー "14")

受信時に、設定された時間まで何も操作を行わないと、自動的に電源が "OFF" になる機能です。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を "APO - 14-" にあわせませう。



3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

APO OFF (オートパワーオフ機能 "OFF")



APO 0.5H (何も操作しないと、30分後に自動的に電源が切れます)



APO 1H (何も操作しないと、1時間後に自動的に電源が切れます)



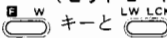
APO 8H (何も操作しないと、8時間後に自動的に電源が切れます)

と繰り返しますので、希望の時間にあわせませう。
(工場出荷時は "APO OFF" に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス 5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

● ロックスイッチの動作選択操作

(セットモード時のアドレスナンバー “15”)
 キーと  キーを続けて順に押すとキーボードの動作をロックすることができますが、PTTスイッチや、DIALツマミなどもロックするように設定することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を “LOCK - 15-” にあわせませす。

LOCK - 15-

3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

LOCK **KL**

(キーボードの動作をロックします)



LOCK **DL**

(DIALの動作をロックします)



LOCK **KL DL**

(キーボードとDIALの動作をロックします)



LOCK PL

(PTTスイッチの動作をロックします)

**LOCK KL PL**

(キーボードとPTTスイッチの動作をロックします)

**LOCK DL PL**

(DIALとPTTスイッチの動作をロックします)

**LOCK KL DL PL**

(キーボード/DIALツマミ/PTTスイッチの動作をロックします)

と変化しますので、希望の状態にあわせませす。

(工場出荷時は“**LOCK KL**”に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス

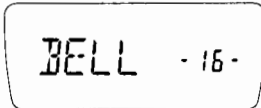
5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●ベル機能のON/ OFF

(セットモード時のアドレスナンバー “16”)

トーンスケルチ運用時やDCS運用時に、特定の相手から呼び出されたときに音とディスプレイの表示で知らせるベル機能をON/ OFFする操作です。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“**BELL - 16 -**”にあわせませす。



3. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、

BELL on (呼び出し音が鳴る)



BELL off (呼び出し音は鳴らない)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせませす。
(工場出荷時は“**BELL off**”に設定してあります)

4. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス

4.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●BUSY/ TXランプのON/ OFF

(セットモード時のアドレスナンバー “17”)

送信時や信号を受信したときに点灯するBUSY/ TXランプを点灯しないように設定することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“LGT - 17-”にあわせませう。

LGT - 17-

3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、
LGT on (送信時は赤、信号受信時は緑に点灯します)
↓
LGT off (送信時、信号受信時共に点灯しません)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせませう。
(工場出荷時は“LGT on”に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス 5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●LAMPスイッチの動作選択操作

(セットモード時のアドレスナンバー “18”)

LAMPキーを押したときのランプの点灯条件を設定することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“LAMP - 18-”にあわせませう。

LAMP - 18-

3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、
5SEC LP
(LAMPキーを押した後、5秒後に自動的に消灯します)

↓
KEY LP

(PTTとMONIキーを除いたキーを押したときに自動的に点灯し、5秒後に自動的に消灯します)

↓
TGL LP

(LAMPキーを押すと、再びLAMPキーを押すまで点灯し続けます)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。
(工場出荷時は“SSFC LP”に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス 5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●メモリーグループ設定

(セットモード時のアドレスナンバー “19”)

メモリーできるグループを最大で9グループまで設定することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を “GRP - 19-” にあわせませう。

GRP - 19-

3. DIALツマミを押すと、現在のグループ1に設定されているチャンネル数を表示します。
4. 再びDIALツマミを押すと、グループ1のチャンネル数を設定できるようになりますので、DIALツマミをまわして希望のチャンネル数を設定します。

GRP 1 25

5. 再びDIALツマミを押すと、次のグループのチャンネル数を設定できるようになりますので、DIALツマミをまわして希望のチャンネル数を設定します。

GRP 2 40

6. 5.の操作を繰り返して、他のグループの設定を行います。



◎それぞれのグループに設定されたチャンネル数の合計は、99チャンネル (FTT-10/A06の場合は30チャンネル) を超えることはできません。

◎本機は、工場出荷時には、グループ1に30チャンネルのみを設定してます。

7. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

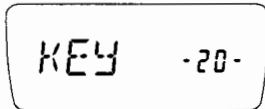
アドバイス 7.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●セレクトキーの動作選択

(セットモード時のアドレスナンバー "20")

DIALツマミを押したときの動作を、設定することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を "KEY-20-" にあわせませす。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして "SEL" にあわせませす。
5. DIALツマミを押します。
6. DIALツマミをまわすと、

OFF (未設定)



RSRV (バッテリーセーブ設定キーとして動作)



APD (オートパワーオフ設定キーとして動作)



RPTR (シフト方向設定キーとして動作)



STEP (周波数ステップ設定キーとして動作)



TSRV (送信セーブ設定キーとして動作)



BEEP (ビープ機能設定キーとして動作)



SGL (スケルチレベル設定キーとして動作)



PAGE (ページャー関係設定キーとして動作)



CODE (ページャーコード設定キーとして動作)



DTMF (DTMFのON/OFFキーとして動作)

と変化しますので、希望の状態にあわせませす。

(工場出荷時は "OFF" に設定してあります)

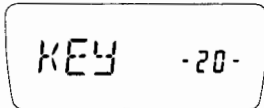
7. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

●HOME/ REVの選択

(セットモード時のアドレスナンバー “20”)

HOMEキーをREVキーに変更することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を “KEY -20-” にあわせませす。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして “H/R” にあわせませす。
5. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、
HOME (ホームキーとして動作)



REV (リバースキーとして動作)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせませす。
(工場出荷時は “HOME” に設定してあります)

6. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

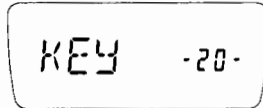
アドバイス REVキーに変更後でも  キーに続けて  キーを押すことにより、ホームチャンネルを呼び出すことができます。

●MONI/ T.CALL選択

(セットモード時のアドレスナンバー “20”)

MONIスイッチをT.CALL (トーンバースト) スイッチに変更することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を “KEY -20-” にあわせませす。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして “M/T” にあわせませす。
5. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、
MON (MONIキーとして動作)



T.CALL (トーンバーストキーとして動作)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせませす。
(工場出荷時は “MONI” に設定してあります)

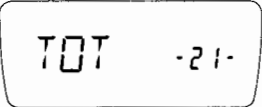
6. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

●TOT機能のON/ OFF

(セットモード時のアドレスナンバー “21”)

10分間連続送信を行うと自動的に受信状態に戻る
TOT機能をON/OFFする操作です。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を
“TOT-21-”
にあわせます。



TOT -21-

3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

TOT off (TOT機能は動作しない)



TOT on (TOT機能が動作)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。
(工場出荷時は “TOT on” に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス

5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●ハーフデビエーションのON/ OFF操作

(セットモード時のアドレスナンバー “22”)

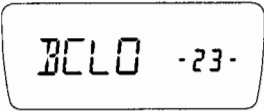
この機能は、常に “OFF” の状態で使用してください。

●受信中の送信禁止機能のON/ OFF

(セットモード時のアドレスナンバー “23”)

信号を受信中は、送信状態にならない機能です。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を “**BCLO -23-**” にあわせませう。



BCLO -23-

3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、

BCLO on (信号を受信中は送信できません)



BCLO off (信号を受信中でも送信できます)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせませう。

(工場出荷時は “**BCLO off**” に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス

5.でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

●SFTのON/ OFF

(セットモード時のアドレスナンバー “24”)

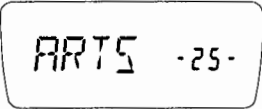
この機能は、常に “OFF” の状態で使用してください。

●ARTSの時間変更操作

(セットモード時のアドレスナンバー “25”)

ARTS機能を動作させた時の、確認信号を送出する間隔(時間)を設定することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“ARTS -25-”にあわせませす。



ARTS -25-

3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして“SPE”にあわせませす。
5. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、

SPE 25 (25秒ごとに確認信号を送出します)



SPE 15 (15秒ごとに確認信号を送出します)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせませす。
(工場出荷時は“SPE 25”に設定してあります)

6. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

●ARTS動作時のビーブ音ON/ OFF

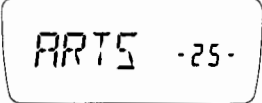
(セットモード時のアドレスナンバー “25”)

ARTS機能が動作しているときのビーブ音(確認音)をON/ OFFすることができます。



ARTS動作時のビーブ音が“ON”に設定されていても、107ページのビーブ音のON/ OFFが“OFF”の場合は、ビーブ音(確認音)は出ません。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“ARTS -25-”にあわせませす。



ARTS -25-

3. 再びDIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして“BEEP”にあわせませす。
5. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、

BEEP on (ビーブ音が鳴ります)



BEEP off (ビーブ音は鳴りません)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせませす。
(工場出荷時は“BEEP on”に設定してあります)

6. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

●CWID機能の設定

(セットモード時のアドレスナンバー “26”)

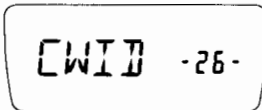
ページャー運用時に自動応答機能を動作させたときや、ARTS機能動作時に、CWIDに登録した文字または数字などをモールスコードで送出する機能です。



◎ただし、ARTS機能動作時には、DCSコードを送出しませんので、当人同士はこのCWIDは聞くことができません。

◎CWID機能を動作させるには、第三級アマチュア無線技士以上の資格を持ち、F2の電波型式が免許されていない必要があります。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を “**[WI]-26-**” にあわせませう。



3. DIALツマミを押して、DIALツマミをまわすと、
[WI] on (自動応答の時、登録されたIDをモールス音で送出します)

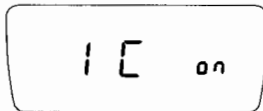


[WI] off (CWID機能は動作しません)
と繰り返しますので、希望の状態にあわせませう。

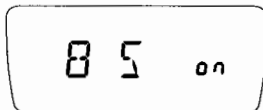
(工場出荷時は “**[WI] off**” に設定してあります)

アドバイス “**[WI] off**” にあわせたる場合は 7. の操作をおこなってください。

4. この状態でDIALツマミを押すと、1番目の文字を設定することができるようになりますので、下表を参考にして、DIALツマミをまわし、設定したい1番目の文字にあわせませう。



5. 再びDIALツマミを押して、2番目の文字設定が行えるようになります。



6. 上記5. ~6.の操作を繰り返し、最後の文字まで設定して行きます。(最大8文字)
7. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

CWIDで表示できる文字

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B
C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z

● ページャーコードの送出スピードの設定 (セットモード時のアドレスナンバー “27”)



FTT-10/ A16SまたはFTT-10/ A16Dのみ対応

PAGEコードを送出するスピードを設定することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“PAGE -27-”にあわせませう。

PAGE -27-

3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして“SPEED”にあわせませう。

SPEED

5. DIALツマミを押します。

6. DIALツマミをまわすと、

SPEED 50 (1秒間に10桁のコードを送るスピード)



SPEED 100 (1秒間に5桁のコードを送るスピード)

と繰り返しますので、希望のスピードにあわせませう。

(工場出荷時は“SPEED 50”に設定してあります)

7. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

● ページャーディレイタイムの設定 (セットモード時のアドレスナンバー “27”)



FTT-10/ A16SまたはFTT-10/ A16Dのみ対応

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“PAGE -27-”にあわせませう。

PAGE -27-

3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして“DLRY”にあわせませう。

DLRY

5. DIALツマミを押します。
6. DIALツマミをまわすと、
DLRY 450 (送信してから450mS後にPAGE
コードを送出します)



DLRY 750 (送信してから750mS後にPAGE
コードを送出します)

と繰り返しますので、希望のディレイタイムにあわせませう。

(工場出荷時は“DLRY 450”に設定してあります)

7. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。



レピーター局を通してページャー運用を行うときには、誤動作防止のため、ページャー運用時の送信ディレイタイムを“750mS”に設定してください。

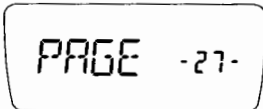
● ページャー呼び出し音の回数設定 (セットモード時のアドレスナンバー "27")



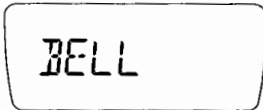
FTT-10/ A16SまたはFTT-10/ A16Dのみ対応

ページャー運用時に呼び出されたときに鳴る呼び出し音の回数を設定できます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を "PAGE -27-" にあわせませう。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわして "BELL" にあわせませう。



5. DIALツマミを押します。

6. DIALツマミをまわすと、

BELL OFF (呼び出し音は鳴りませう)



BELL 1 (呼び出し音は1回)



BELL 3 (呼び出し音は3回)



BELL 5 (呼び出し音は5回)

と繰り返しますので、希望の回数にあわせませう。
(工場出荷時は "BELL 3" に設定してあります)

7. 最後にDIALツマミを押して、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

● ページャーアンサーバックのON/ OFF (セットモード時のアドレスナンバー “27”)



FTT-10/ A16SまたはFTT-10/ A16Dのみ対応

ページャー運用時に呼び出されたときに、自動的に応答する機能をON/ OFFすることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。

2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“PAGE -27-”にあわせます。

PAGE -27-

3. DIALツマミを押します。

4. DIALツマミをまわして“RS BK”にあわせます。

RS BK

5. DIALツマミを押します。

6. DIALツマミをまわすと。

RS BK on (自動応答を行います)



RS BK off (自動応答は行いません)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。
(工場出荷時は“RS BK off”に設定してあります)

7. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

●録音チャンネル2 (REC2) の時間設定 (セットモード時のアドレスナンバー "28")



FTT-10/ A16Sのみ対応

録音チャンネル2 (REC2) に録音できる時間を設定することができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を "MTIM-28-" にあわせませす。

MTIM -28-

3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと、
MTIM OFF (REC2は動作しません、REC 1
の録音時間は20秒)

↓
MTIM 1 (REC2の録音時間を1秒に設定し
ます、REC 1の録音時間は19秒)

↓
MTIM 2 (REC2の録音時間を2秒に設定し
ます、REC 1の録音時間は18秒)

MTIM 3 (REC2の録音時間を3秒に設定し
ます、REC 1の録音時間は17秒)

↓
↓
↓
MTIM 8 (REC2の録音時間を8秒に設定し
ます、REC 1の録音時間は12秒)

↓
MTIM 9 (REC2の録音時間を9秒に設定し
ます、REC 1の録音時間は11秒)

↓
MTIM 10 (REC2の録音時間を10秒に設定し
ます、REC 1の録音時間は10秒)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせませす。
(工場出荷時は "MTIM OFF" に設定してあり
ます)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチ
を押すと操作は終了です。

アドバイス 5. でDIALツマミを押した後に、続け
てDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わり
ますので、他の機能の設定を行うことができます。

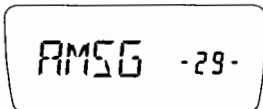
●アンサーメッセージのON/ OFF (セットモード時のアドレスナンバー “29”)



FTT-10/ A16Sのみ対応

ページャー運用時に自動応答機能を動作させたとき、録音した音声を送出する機能をON/OFFすることができます。

1. DIALツマミを0.5秒以上押し続けるとセットモードの状態になります。
2. DIALツマミをまわして、ディスプレイの表示を“*RM5G -29-*”にあわせます。



3. DIALツマミを押します。
4. DIALツマミをまわすと。

RM5G on (自動応答を行った時に*RECE*または*REC*に録音された音声を送信します)



RM5G off (音声の送信は行いません)

と繰り返しますので、希望の状態にあわせます。
(工場出荷時は“*RM5G off*”に設定してあります)

5. 最後にDIALツマミを押し、続けてPTTスイッチを押すと操作は終了です。

アドバイス 5. でDIALツマミを押した後に、続けてDIALツマミをまわすとアドレスナンバーが変わりますので、他の機能の設定を行うことができます。

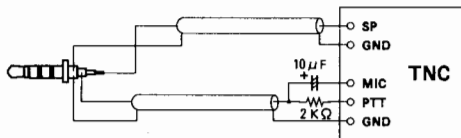
その他

パケット通信

本機でパケット通信を行うときには、下図に示すように、お手持ちのパケット通信用TNCの各端子と本体側面部にあるMIC/EARジャックとの間を、3.5φ4極プラグを使用して接続してください。

なお、本機のMIC/EARジャックには、入力レベルを調節する回路はありませんので、入力レベルの調節は、TNC側の入力レベル調整用ポリウムで行ってください。

また、MIC/EARジャックからの出力レベルは、本体上面部のVOLツマミで調節してください。



リセット操作

本機は、メモリーチャンネルの内容や電源スイッチを切る前に設定してあった運用状態を記憶する、メモリーIC “E²PROM” を採用し、電池ケース（またはNi-Cd電池パック）を外した場合でもメモリーなどCPUの内容を、長期間記憶し続けることができます。

なお、メモリーチャンネル内に書き込まれている全

アドバイス ◎本機でパケット通信を行うときには、バッテリーセーブ機能は“OFF”にしてください。詳しくは、92ページの“バッテリーセーブ機能”をご覧ください。

◎TNCとパーソナルコンピューター間の接続方法は、TNCの取扱説明書に従って行ってください。



◎一般的にパーソナルコンピューターは、雑音が発生する可能性があり、本機をパーソナルコンピューターの近くで使用するとこの雑音により受信が妨害されることがあります。このような場合には、ホトカブラやノイズフィルターなどを通して接続するか、パーソナルコンピューターを本機からできるだけ離してお使いください。

◎多量のデータを連続して送信するときには、本機の発熱に十分ご注意ください。

てのデータを消去したいときには、次の手順で本機を初期状態に戻してください。

1. 一度電源を“OFF”にします。
2. DIALツマミとMONIキーを押しながらPWRスイッチを押して、電源を“ON”にします。

以上で本機は初期状態に戻ります。

クローン操作

クローン操作とは、1台のFT-10/40（送り側）に設定してあるメモリーなどの情報を、他のFT-10/40（受け側）に転送して複製する操作で、下記の手順で行います。



クローン操作は、DCS機能をOFFにしてから行ってください。（P.72ページ参照）

1. 送り側、受け側の電源スイッチを両方とも“OFF”にし、両方のMIC/EARジャックを下図に示す接続ケーブルで接続します。



2. 送り側と受け側の電源を、DIALツマミとPTTスイッチを同時に押しながら“ON”にします。

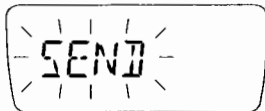
（ディスプレイに“CLON”が表示されます）

3. 受け側のMONIスイッチを押します。

（ディスプレイに“LORD”が表示されます）

4. 送り側のPTTスイッチを押します。
（送り側のディスプレイに“SEND”が点滅し、受け側の“LORD”が点滅に変わります）

送り側 ➡



受け側 ➡



5. 転送が完了すると、送り側、受け側両方のディスプレイに“CLON”が表示されます。

6. 電源を“OFF”にしてから、接続ケーブルを外して、クローン操作は終了です。



クローン操作中、ディスプレイに“ERR*”が表示された場合、ケーブルの接続などを確認して、初めから操作をやり直してください。

故障かな？と思ったら 修理を依頼する前に、ちょっとお確かめください。**■電源が入らない！****●乾電池は正しく電池ケースに挿入してありますか？**

○乾電池は指定通りに、プラス（＋）マイナス（－）の極性を間違えず、正しく電池ケースに挿入してください。（☞ 18ページ）

●外部電源の接続は間違っていないですか？

○外部電源を使用するときには、必ずオプションの外部電源用アダプター“E-DC-5B”や、外部電源用ケーブル“E-DC-6”を使用してください。

（☞ 8ページ）

●電池または電源の電圧は正常ですか？

○本機の動作電圧範囲は4.0～16.0Vです。この範囲内の電圧でご使用ください。（☞ 6ページ）

■音が出ない！！**●音量が低くなっていませんか？（☞ 22ページ）****●スケルチレベルが深くなっていませんか？（☞ 23ページ）****●トーンスケルチ運用またはDCS運用になっていませんか？**

○トーンスケルチ運用またはベル運用中は、自局の設定したトーン信号と同じ周波数のトーン信号やDCSコードを伴った信号を受信するまでは、音は出ません。（☞ 69ページ）

●ページャー機能が動作状態になっていませんか？

○ページャー機能が動作しているときには、自局のコードメモリーにメモリーしてある、いずれか1つのページャーコードと同じ組み合わせのページャーコードを受信するまでは、音は出ません。

（☞ 78ページ）

●外部スピーカーの接続は間違っていないですか？

（☞ 11ページ）

●電池または電源の電圧は正常ですか？

○本機の動作電圧範囲は4.0～16.0Vです。この範囲内の電圧でご使用ください。（☞ 6ページ）

■受信できない!!!

●アンテナは正しく接続してありますか？

○本機に使用するアンテナは、自局の運用形態にあったアンテナを選び、本体上面部にあるANT端子に接続してください。(☞ 8ページ)

●アンテナのマッチングは正しく取れていますか？
“外部アンテナ使用時”

○無線機は、アンテナによって受信感度や送信電波の飛び具合が大きく影響しますので、アンテナと同軸ケーブル・同軸ケーブルと本機との間の整合を確実にとり、SWRが低い状態で使用するようにしてください。(☞ 8ページ)

■電波が出ない!!!!

●PTTスイッチは確実に押していますか？

(☞ 28ページ)

●PTTロック状態になっていませんか？

○ディスプレイに“PL”の表示が点灯しているときにはPTTスイッチがロックされている状態です。PTTロックを解除してください。(☞ 110ページ)

●アンテナは確実に接続してありますか？

○アンテナは必ず、付属のホイップアンテナまたはインピーダンス50Ωの144MHz帯用(FT-10の場合)または430MHz帯用(FT-40の場合)アンテナを使用してください。(☞ 8ページ)

●送信オフセット運用で、送信時にオフバンドになっていませんか？

○送信時にオフバンドになると、“ERR”の表示がディスプレイに表示され、送信状態になりません。(☞ 67ページ)

●電池または電源の電圧は正常ですか？

○本機の動作電圧範囲は4.0~16.0Vです。この範囲内の電圧でご使用ください。また送信時に、電圧降下を起こすような電源では、本機の性能を十分に発揮することはできません。(☞ 6ページ)

アマチュア無線局免許申請書類の書きかた

本機は技術基準適合機ですので、「無線局事項書及び工事設計書」と「アマチュア局の無線設備の技術基準適合証明書（開局の場合）」または「技術基準適合証明書発行願（変更“取替え及び増設”の場合）」に技術基準適合証明番号を記入すれば、「無線局事項書及び工事設計書の一部分（次ページから始まる記入例の※印の部分）」と「送信機系統図」の記入を省略することができます。

また、他の“技術基準適合機ではない無線設備”と一緒に保証認定で免許申請を行う場合でも、本機に関しては技術基準適合証明番号を記入するだけで、「無線局事項書及び工事設計書の一部分」と「送信機系統図」の記入を省略することができます。

ただし、本機にポケット通信用のTNCなどの付属装置を接続して申請する場合には、本機は技術基準適用機外になりますので、基準適合証明番号は記入せず、次ページから始まる記入例を参考に、「無線局事項書及び工事設計書」の各項目（記入例の※部分）に必要事項を記入するとともに、134ページに示す“送信機系統図”を添付して申請してください。



技術基準適合証明番号は無線機ごとに異なり、本体底面に貼り付けてある技術基準適合証明シールに記載してあります。

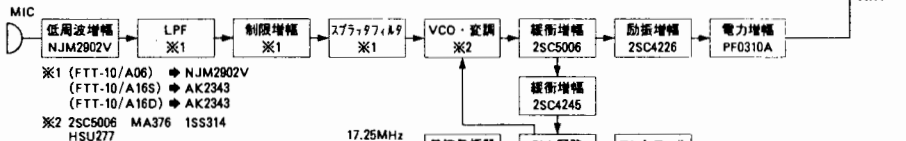
FT-10で申請する場合

希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式									
周波数帯	空中線電力	電波の型式			周波数帯				
144M	10	F2, F3, , ,							
工事設計		第1送信機			第2送信機				
変更の種類		取替 増設 撤去 変更			取替 増設 撤去 変更				
技術基準適合証明番号		ここに「技術基準適合証明番号」を記入します							
※ 発射可能な 電波の型式、 周波数の範囲		F2, F3 144MHz帯							
※ 変調の方式		リアクタンス変調							
定格出力 ※		5W			W				
終 段 管	※ 名称個数	PF0310A							
	※ 電 圧	9.2V			V				
送信空中線の型式		単一型			周				
その他の工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している							

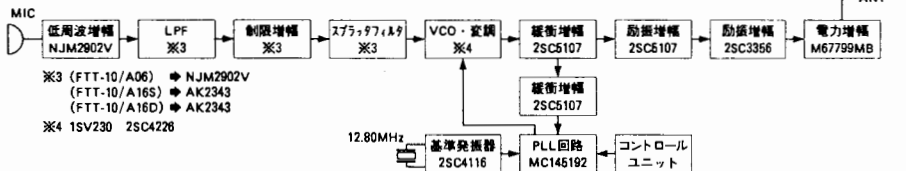
FT-40で申請する場合

希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式									
周波数帯	空中線電力	電波の型式			周波数帯				
430M	10	F2, F3, , ,							
工事設計		第1送信機			第2送信機				
変更の種類		取替 増設 撤去 変更			取替 増設 撤去 変更				
技術基準適合証明番号		ここに「技術基準適合証明番号」を記入します							
※ 発射可能な 電波の型式、 周波数の範囲		F2, F3 430MHz帯							
※ 変調の方式		リアクタンス変調							
定格出力 ※		5 W			W				
終 段 管	※ 名称個数	M67799MB							
	※ 電 圧	9.2V			V				
送信空中線の型式		単一型			周				
その他の工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している							

● FT-10で申請を行う場合の送信機系統図



● FT-40で申請を行う場合の送信機系統図



記入例

本機にパケット通信のTNCを接続する場合の記入例を示します。

- “送信機系統図” に、次の項目を記入します。



※『技術基準適合証明番号』を記入します



『方式、規格』は、お手持ちのTNCの取扱説明書を参考に、ご記入下さい。

- “アマチュア局の無線設備の保証認定願” に、次の項目を記入します。

5. 送信機の付属装置

11 名称	12 方式、規格	13 備考(注)
パケット装置	方式: AFSK装置, 通信速度: 1200ボー,	
	符号構成: AX.25プロトコル準拠,	
	周波数偏移: $\pm 500\text{Hz}$,	
	副搬送波周波数: 1700Hz	

あ

アマチュア無線局免許申請書類の書きかた	132
アンサーメッセージのON/OFF操作	126
安全上のご注意	6
アンテナについて	8
アンテナの取り付け/取り外しかた	19

う

運用周波数の設定	24
----------	----

え

ARTS機能	75
ARTS動作時のピープ音ON/OFF操作	119
ARTSの時間設定操作	119
ARTS機能の設定操作	76
ARTS機能を終了させる	78
ARTS機能を動作させる	77
ARS機能のON/OFF	104
FTT-10/A06のキーボードの動作説明	97
FTT-10/A16Sのキーボードの動作説明	95
FTT-10/A16Dのキーボードの動作説明	96

お

オートマチックパワーオフ機能	94
オプション	4
音声録音機能	34
録音時間の設定	34
録音のしかた	36
再生のしかた	39

か

外部電源使用時の注意事項	8
--------------	---

き

キーパッドの交換方法	16
キーロック操作	27

く

クローン操作	129
--------	-----

こ

故障かな?と思ったら	130
------------	-----

さ

サブ表示のON/OFF	104
-------------	-----

し

シフト方向の設定	105
シフト幅の設定操作	106
周波数ステップの設定	106
受信音の調節	22
受信中の送信禁止機能	33
受信中の送信禁止機能のON/OFF	118
CWID機能の設定	120

す

スキャン操作	55
スキャンレジュームの選択操作	55
VFO周波数スキャン	56
メモリーチャンネルスキャン	57
メモリーチャンネルスキップ	58
プログラマブルメモリスキャン	60
スケルチ回路の調節	23
ステップ幅の設定	26

せ

セットモード	99
セレクトキーの動作選択	115

そ

送信オフセット運用	67
送信出力の設定	30
送信のしかた	28

た

タイムアウトタイマー機能	33
--------------------	----

て

定格 (FT-10)	12
定格 (FT-40)	13
電源について	7
電源の入れかた/切りかた	21
電池ケースおよびNi-Cd電池パックの 取り付け/取り外しかた	18
電池の入れかた	18
デュアルレシーブ機能	62
VFOモード時のデュアルレシーブ機能	62
メモリーモード時のデュアルレシーブ機能	63
ホームチャンネル時のデュアルレシーブ機能	64
デュアルレシーブ機能の解除	65
DCS運用	72
DCSコードの選択操作	73
DCSサーチ機能	73

DTMF機能	89
DTMFメモリーセット	89
DTMFメモリーの呼び出し	91
DTMFモードの解除	91
TOT機能のON/OFF	117
TX SAVE機能	32

と

トーンサーチ機能	71
トーン周波数の選択操作	70
トーンスケルチ運用	69
取り扱い上のご注意	6

は

ハーフデビュエーションのON/OFF操作	117
パケット通信	128
バッテリーセーブ運用	92
バッテリーセーブ設定	108
ハンドストラップの取り付けかた	20

ひ

ピープ音のON/OFF	107
ピープ機能	93
144MHz帯の使用区分について	29
BUSY/TXランプのON/OFF操作	112

ふ

付属品	4
VFOの切り換え方法	26

へ

ページャーアンサーバックのON/OFF	124
ページャー運用	78
ページャーコードの設定	79
待ち受け操作	82
ページャー自動応答機能	84
呼び出し操作	85
マニュアル操作による呼び出し操作	87
着呼禁止機能	88
ページャーコードの送出スピードの選択操作	121
ページャーディレイタイムの設定操作	122
ページャー呼び出し音の回数設定操作	123
ベル機能	74
ベル機能のON/OFF操作	111
ベルトクリップの取り付け/ 取り外しかた	20

ほ

ホームチャンネル運用の解除	54
ホームチャンネルセット	54
ホームチャンネルの呼び出し操作	53
本体上面部の説明	9
本体前面部の説明	10
本体側面部の説明	11
HOME/ REVの選択操作	116

め

メモリー操作	42
シンプレックス・メモリー操作	43
セミデュプレックス・メモリー操作	44
メモリーチャンネルの呼び出し操作	45
メモリーモードの内容をVFOモードに移動	46
ダイレクト呼び出し操作	46
メモリーチューン機能	47
メモリーチャンネルクリア操作	48
メモリーオンリーモード	49
タグ機能	50
メモリーモードの解除	52
メモリークリア操作	102
メモリーグループ設定	114
メモリー復活操作	103

メモリーに名前を付ける	101
-------------------	-----

も

目次	2
MONI/ T.CALL選択操作	116

よ

430MHz帯の使用区分について	29
------------------------	----

ら

LAMP機能	27
LAMPスイッチの動作選択操作	112

り

リセット操作	128
--------------	-----

れ

レピーター運用	66
録音チャンネル2 (REC2) の時間設定	125

ろ

ロックスイッチの動作選択操作	110
----------------------	-----

YAESU
Performance without compromise.SM

八重洲無線株式会社

営業部 ☎146 東京都大田区下丸子1-20-2

札幌営業所/サービス ●003 札幌市白石区南水6条1-1-33 石川ビル ☎011 (823) 1161
仙台営業所/サービス ●983 仙台市若林区大和町3-6-17 ☎022 (235) 5678
北関東営業所/サービス ●332 埼玉県川口市勢平1-5-9 ☎048 (222) 0651
関西営業所 ●146 東京都大田区下丸子1-20-2 ☎03 (3759) 9181
名古屋営業所/サービス ●457 名古屋市中区戸部町2-3-4 ☎052 (811) 4949
大阪営業所/サービス ●542 大阪市中央区上杉1-4-6 吉井ビル ☎06 (764) 4949
広島営業所/サービス ●733 広島市西区己斐本町2-12-30 SKビル ☎082 (273) 2332
福岡営業所/サービス ●812 福岡市博多区上牟田1-16-26 第2山本ビル ☎092 (482) 4082
サービスセンター ●332 埼玉県川口市勢平1-5-9 ☎048 (222) 0651

© 1995 八重洲無線株式会社

☎ 無断転載・複写

E06980000 (9508f-AA)